Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

看護職員確保のために，職場環境づくり等に取り組んでいる施設の実態を調査し，看護職員の離職防止・定着促進のための対策の基礎資料とする。

２　調査主体

広島県　【調査実施：公益社団法人広島県看護協会(委託)】

３　調査の時期

令和 7 年 12 月 12 日～令和 8 年 1 月 16 日

４　調査対象及び調査方法

県内の全病院である 227 病院（令和 7 年 9 月 30 日現在）を母集団として，病院の看護管理者（看護部長等）を対象に自記式調査票（Ⅳ参考資料　資料 1，資料 2）を郵送し，返信用封筒により回収した。

５　回収数及び有効回答

回収数及び有効回答

調査客体 （ａ）	回収数 （ｂ）	回収率 （ｂ）／（ａ）	有効回答数 （ｃ）	有効回答率 （ｃ）／（ｂ）
227	184	81%	184	100%

６　本文の表し方

1)　看護職員は，保健師，助産師，看護師及び准看護師をいう。

2)　正規職員とは，原則としてフルタイム勤務であり，雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいう。なお，常勤，非常勤は勤務時間により区分するもので，常勤職員はフルタイムで働く職員のことをいう。

3)　新卒とは，看護師等免許取得後 1 年以内をいう。

4)　回答率（項目の回答の百分比）は，小数点第 2 位を四捨五入した。

5)　本文，統計表等で用いた記号等の意味は，主に以下のとおりである。
(1)　「n」はその質問に対する回答数であり比率算出の基数である。
(2)　統計図表の「-」は計数がないことを示す。「0」は，計数はあるが四捨五入をして 0 であることを示す。

6)　離職率の算出は次の計算による。

○正規看護職員離職率＝令和 6 年度正規離職者数／令和 6 年度平均正規職員数×100
▶ 平均正規職員数＝（年度当初の在籍職員数＋年度末の在籍職員数）／2

○正規以外看護職員離職率＝令和 6 年度正規以外離職者数／令和 6 年度平均正規以外職員数×100
▶ 平均正規以外職員数＝（年度当初の在籍職員数＋年度末の在籍職員数）／2

○新卒離職率＝令和 6 年度の新卒離職者数／令和 6 年度の新卒採用者数×100

II 調査結果

1 病院の概要

令和 7 年 4 月 1 日現在の病院の概要は次のとおりであった。

1） 設置主体別病院数

設置主体別で最も多いのは,「医療法人」122 病院(66.3%), 次いで「県市町」15 病院(8.2%)であった。(表 1)

表 1　　設置主体別病院数

(単位：病院（%）)

設置主体	病院数		備考
計	184	(100.0)	
国公立大学法人	1	(0.5)	
独立行政法人	12	(6.5)	
県市町	**15**	**(8.2)**	都道府県=4, 市町村=11,
その他公的医療機関	8	(4.3)	日赤=3, 厚生連=3, 済生会=2
医療法人	**122**	**(66.3)**	
個人	5	(2.7)	
会社	3	(1.6)	
その他の法人	8	(4.3)	社会福祉法人=4, 医師会=2, 医療センター=1, 一般財団法人=1
その他	10	(5.4)	共済組合及びその連合会=5, 医療生協=3, 健康保険組合及びその連合会=1, 防衛省=1

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2） 保健医療圏域別病院数

保健医療圏域別で最も多いのは,「広島」75 病院(40.8%), 次いで「福山・府中」38 病院(20.7%)であった。(表 2)

表 2　　保健医療圏域別病院数

(単位：病院（%）)

保健医療圏域	病院数	
計	184	(100.0)
広島	**75**	**(40.8)**
広島西	11	(6.0)
呉	20	(10.9)
広島中央	17	(9.2)
尾三	15	(8.2)
福山・府中	**38**	**(20.7)**
備北	8	(4.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 稼働病床規模別病院数

稼働病床（以下「病床」という。）規模別で最も多いのは，「100～199 床」が 70 病院(38.0%)，次いで「99 床以下」が 66 病院（35.9%）で，200 床未満が全体の 73.9%であった。（表 3）

表 3　　病床規模別病院数

（単位：病院（%））

病床規模	病院数	
計	184	(100.0)
99 床以下	**66**	**(35.9)**
100～199 床	**70**	**(38.0)**
200～299 床	23	(12.5)
300～399 床	14	(7.6)
400～499 床	4	(2.2)
500 床以上	7	(3.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2 看護職員の状況

令和 7 年 4 月 1 日現在の看護職員の状況は次のとおりであった。

1） 正規・正規以外別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

正規・正規以外別・職種別看護職員数の実人員は 23,498 人で，「正規」21,067 人(89.7%)，「正規以外」2,431 人(10.3%)であった。（表 4-①）

換算数は 21,525.9 人で，「正規」19,722.0 人(91.6%)，「正規以外」1,803.9 人(8.4%)であった。（表 4-②）

表 4-①　　正規・正規以外別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	**23,498**	(100.0)	98	(0.4)	519	(2.2)	21,176	(90.1)	1,705	(7.3)
正規	**21,067**	**(89.7)**	77	(0.3)	485	(2.1)	19,210	(81.8)	1,295	(5.5)
（男性）	2,628	(11.2)	8	(0.0)			2,454	(10.4)	166	(0.7)
正規以外	**2,431**	**(10.3)**	21	(0.1)	34	(0.1)	1,966	(8.4)	410	(1.7)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 4-②　　正規・正規以外別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	**21,525.9**	(100.0)	84.2	(0.4)	479.6	(2.2)	19,519.3	(90.7)	1,442.8	(6.7)
正規	**19,722.0**	**(91.6)**	68.8	(0.3)	454.3	(2.1)	18,042.4	(83.8)	1,156.5	(5.4)
正規以外	**1,803.9**	**(8.4)**	15.4	(0.1)	25.3	(0.1)	1,476.9	(6.9)	286.3	(1.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2） 保健医療圏域別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

保健医療圏域別・職種別看護職員の実人員で最も多いのは「広島」10,847 人(46.2%)，職種別では「看護師」9,998 人(42.5%)，次いで「福山・府中」4,113 人(17.5%)，職種別では「看護師」3,567 人(15.2%)であった。(表 5-①)

換算数でみると，最も多いのは「広島」10,017.4 人(46.5%)，職種別では「看護師」9,277.2 人(43.1%)，次いで「福山・府中」3,768.6 人(17.5%)，職種別では「看護師」3,288.5 人(15.3%)であった。(表 5-②) また，看護職員の正規の実人員・換算数でも同様の傾向であった。(表 5-③) (表 5-④)

表 5-①　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	23,498	(100.0)	98	(0.4)	519	(2.2)	21,176	(90.1)	1,705	(7.3)
広島	**10,847**	**(46.2)**	38	(0.2)	214	(0.9)	**9,998**	**(42.5)**	597	(2.5)
広島西	1,512	(6.4)	5	(0.0)	25	(0.1)	1,420	(6.0)	62	(0.3)
呉	2,317	(9.9)	29	(0.1)	58	(0.2)	2,042	(8.7)	188	(0.8)
広島中央	1,851	(7.9)	9	(0.0)	32	(0.1)	1,652	(7.0)	158	(0.7)
尾三	2,053	(8.7)	6	(0.0)	44	(0.2)	1,814	(7.7)	189	(0.8)
福山・府中	**4,113**	**(17.5)**	5	(0.0)	104	(0.4)	**3,567**	**(15.2)**	437	(1.9)
備北	805	(3.4)	6	(0.0)	42	(0.2)	683	(2.9)	74	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-②　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	21,525.9	(100.0)	84.2	(0.4)	479.6	(2.2)	19,519.3	(90.7)	1,442.8	(6.7)
広島	**10,017.4**	**(46.5)**	31.7	(0.1)	196.8	(0.9)	**9,277.2**	**(43.1)**	511.7	(2.4)
広島西	1,469.1	(6.8)	4.8	(0.0)	24.4	(0.1)	1,380.8	(6.4)	59.1	(0.3)
呉	2,129.6	(9.9)	26.5	(0.1)	55.7	(0.3)	1,891.8	(8.8)	155.6	(0.7)
広島中央	1,573.8	(7.3)	8.8	(0.0)	31.4	(0.1)	1,391.6	(6.5)	142.0	(0.7)
尾三	1,832.2	(8.5)	3.9	(0.0)	42.0	(0.2)	1,657.0	(7.7)	129.3	(0.6)
福山・府中	**3,768.6**	**(17.5)**	3.8	(0.0)	91.4	(0.4)	**3,288.5**	**(15.3)**	384.9	(1.8)
備北	735.3	(3.4)	4.7	(0.0)	37.9	(0.2)	632.5	(2.9)	60.2	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-③　　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	21,067	(100.0)	77	(0.4)	485	(2.3)	19,210	(91.2)	1,295	(6.1)
広島	**9,825**	**(46.6)**	27	(0.1)	205	(1.0)	**9,141**	**(43.4)**	452	(2.1)
広島西	1,388	(6.6)	4	(0.0)	23	(0.1)	1,313	(6.2)	48	(0.2)
呉	2,035	(9.7)	25	(0.1)	56	(0.3)	1,807	(8.6)	147	(0.7)
広島中央	1,630	(7.7)	8	(0.0)	31	(0.1)	1,469	(7.0)	122	(0.6)
尾三	1,790	(8.5)	4	(0.0)	40	(0.2)	1,618	(7.7)	128	(0.6)
福山・府中	**3,700**	**(17.6)**	5	(0.0)	97	(0.5)	**3,256**	**(15.5)**	342	(1.6)
備北	699	(3.3)	4	(0.0)	33	(0.2)	606	(2.9)	56	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 5-④　　保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	19,722.0	(100.0)	68.8	(0.3)	454.3	(2.3)	18,042.4	(91.5)	1,156.5	(5.9)
広島	**9,247.7**	**(46.9)**	23.8	(0.1)	189.0	(1.0)	**8,629.9**	**(43.8)**	405.0	(2.1)
広島西	1,373.7	(7.0)	4.0	(0.0)	22.6	(0.1)	1,299.1	(6.6)	48.0	(0.2)
呉	1,914.4	(9.7)	23.3	(0.1)	53.9	(0.3)	1,709.0	(8.7)	128.2	(0.7)
広島中央	1,417.6	(7.2)	8.0	(0.0)	30.6	(0.2)	1,262.2	(6.4)	116.8	(0.6)
尾三	1,648.1	(8.4)	3.0	(0.0)	39.8	(0.2)	1,515.3	(7.7)	90.0	(0.5)
福山・府中	**3,470.2**	**(17.6)**	3.8	(0.0)	87.2	(0.4)	**3,055.7**	**(15.5)**	323.5	(1.6)
備北	650.3	(3.3)	2.9	(0.0)	31.2	(0.2)	571.2	(2.9)	45.0	(0.2)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 病床規模別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

病床規模別に看護職員数の「実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」6,269 人(26.7%)，次いで「500 床以上」5,447 人(23.2%)であった。また職種別にみると，最も多いのは「100～199 床」の「看護師」で 5,578 人(23.7%)であった。(表 6-①)

「換算数」でみると，最も多いのは「100～199 床」5,556.1 人(25.8%)，次いで「500 床以上」5,136.7 人(23.9%)であった。また職種別にみると，最も多いのは「100～199 床」の「看護師」で 4,985.2 人(23.2%)であった。(表 6-②)

病床規模別に「正規の実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」5,392 人（25.6%），次いで「500 床以上」の 5,165 人（24.5%）であった。また，職種別にみると最も多いのは「500 床以上」の「看護師」で 4,948 人（23.5%）であった。(表 6-③)

「正規の換算数」をみると，最も多いのは「100～199 床」4,952.6 人（25.1%），次いで「500 床以上」4,898.8 人（24.8%）であった。また，職種別にみると最も多いのは「500 床以上」の「看護師」で 4,697.0 人（23.8%）であった。(表 6-④)

表 6-①　病床規模別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	23,498 (100.0)	98 (0.4)	519 (2.2)	21,176 (90.1)	1,705 (7.3)
99 床以下	2,636 (11.2)	3 (0.0)	27 (0.1)	2,158 (9.2)	448 (1.9)
100～199 床	**6,269 (26.7)**	24 (0.1)	3 (0.0)	**5,578 (23.7)**	664 (2.8)
200～299 床	3,594 (15.3)	18 (0.1)	69 (0.3)	3,184 (13.6)	323 (1.4)
300～399 床	3,787 (16.1)	46 (0.2)	136 (0.6)	3,356 (14.3)	249 (1.1)
400～499 床	1,765 (7.5)	－ －	63 (0.3)	1,686 (7.2)	16 (0.1)
500 床以上	**5,447 (23.2)**	7 (0.0)	221 (0.9)	5,214 (22.2)	5 (0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-②　病床規模別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	21,525.9 (100.0)	84.2 (0.4)	479.6 (2.2)	19,519.3 (90.7)	1,442.8 (6.7)
99 床以下	2,334.4 (10.8)	1.8 (0.0)	26.1 (0.1)	1,929.4 (9.0)	377.1 (1.8)
100～199 床	**5,556.1 (25.8)**	18.2 (0.1)	2.6 (0.0)	**4,985.2 (23.2)**	550.1 (2.6)
200～299 床	3,363.3 (15.6)	15.4 (0.1)	60.2 (0.3)	2,993.6 (13.9)	294.1 (1.4)
300～399 床	3,425.0 (15.9)	42.0 (0.2)	128.0 (0.6)	3,052.6 (14.2)	202.4 (0.9)
400～499 床	1,710.5 (7.9)	－ －	59.2 (0.3)	1,636.2 (7.6)	15.1 (0.1)
500 床以上	**5,136.7 (23.9)**	6.8 (0.0)	203.5 (0.9)	4,922.4 (22.9)	4.0 (0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-③　　病床規模別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	21,067	(100.0)	77	(0.4)	485	(2.3)	19,210	(91.2)	1,295	(6.1)
99 床以下	2,228	(10.6)	1	(0.0)	25	(0.1)	1,875	(8.9)	327	(1.6)
100～199 床	**5,392**	**(25.6)**	17	(0.1)	2	(0.0)	4,870	(23.1)	503	(2.4)
200～299 床	3,190	(15.1)	16	(0.1)	58	(0.3)	2,867	(13.6)	249	(1.2)
300～399 床	3,473	(16.5)	38	(0.2)	129	(0.6)	3,097	(14.7)	209	(1.0)
400～499 床	1,619	(7.7)	－	－	59	(0.3)	1,553	(7.4)	7	(0.0)
500 床以上	**5,165**	**(24.5)**	5	(0.0)	212	(1.0)	**4,948**	**(23.5)**	－	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 6-④　　病床規模別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		**看護師**		准看護師	
計	19,722.0	(100.0)	68.8	(0.3)	454.3	(2.3)	18,042.4	(91.5)	1,156.5	(5.9)
99 床以下	2,063.3	(10.5)	－	－	24.8	(0.1)	1,741.9	(8.8)	296.6	(1.5)
100～199 床	**4,952.6**	**(25.1)**	13.8	(0.1)	2.0	(0.0)	4,492.8	(22.8)	444.0	(2.3)
200～299 床	3,045.8	(15.4)	13.4	(0.1)	52.0	(0.3)	2,740.0	(13.9)	240.4	(1.2)
300～399 床	3,173.1	(16.1)	36.6	(0.2)	123.2	(0.6)	2,844.8	(14.4)	168.5	(0.9)
400～499 床	1,588.4	(8.1)	－	－	55.5	(0.3)	1,525.9	(7.7)	7.0	(0.0)
500 床以上	**4,898.8**	**(24.8)**	5.0	(0.0)	196.8	(1.0)	**4,697.0**	**(23.8)**	－	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

4）　正規看護職員数の推移（実人員・換算数）

正規看護職員の推移をみると，令和 7 年度は令和 6 年度に比べ「実人員」は 160 人増加した。実人員で「看護師」は 113 人増加しているが、換算数では 412.4 人　　減少している。（表 7）

表 7　　正規看護職員数の推移

（単位：人）

年度	令和 6 年 4 月 1 日現在					令和 7 年 4 月 1 日現在				
区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
実人員	20,907	84	462	19,097	1,264	21,067	77	485	19,210	1,295
対前年度						**160**	▲ 7	23	**113**	31
換算数	20,214.4	82.2	439.5	18,454.8	1,237.9	19,722.0	68.8	454.3	18,042.4	1,156.5
対前年度						▲ 492.4	▲ 13.4	14.8	**▲412.4**	▲ 81.4

（参考）看護補助者の状況

正規・正規以外別看護補助者数（実人員・換算数）

令和７年４月１日現在の看護補助者の状況は次のとおりであった。

正規・正規以外別看護補助者数の実人員は 4,518 人で，「正規」2,530 人（56,0%），「正規以外」1,988 人（44.0%）であった。（表 8-①）

換算数は 3,824.7 人で「正規」2,327.6 人（60.9%），「正規以外」1,497.1 人（39.1%）であった。（表 8-②）

表 8-①　　正規・正規以外別　看護補助者数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計	
計	**4,518**	(100.0)
正規看護補助者	**2,530**	**(56.0)**
正規以外看護補助者	**1,988**	**(44.0)**

注１　令和７年４月１日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 8-②　　正規・正規以外別　看護補助者数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計	
計	**3,824.7**	(100.0)
正規看護補助者	**2,327.6**	**(60.9)**
正規以外看護補助者	**1,497.1**	**(39.1)**

注１　令和７年４月１日現在の実績

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3　令和７年度採用状況

令和７年４月１日から４月 30 日までの正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1）　新卒者・既卒者別採用状況

採用者数は 1,405 人で，その内訳は「新卒者」1,101 人(78.4%)，「既卒者」304 人(21.6%)であった。(表 9)

表 9　　新卒者・既卒者別・職種別 採用者数

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	**1,405**	(100.0)	8	(0.6)	37	(2.6)	1,289	(91.7)	71	(5.1)
新卒者	**1,101**	**(78.4)**	6	(0.4)	30	(2.1)	1,014	(72.2)	51	(3.6)
既卒者	**304**	**(21.6)**	2	(0.1)	7	(0.5)	275	(19.6)	20	(1.4)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2）　保健医療圏域別採用状況

保健医療圏域別の採用状況をみると，新卒者の採用が最も多かったのは「広島」で 601 人(54.6%)，次いで「福山・府中」173 人(15.7%)であった。一方，最も低かったのは「備北」28 人(2.5%)であった。既卒者の採用が最も多かったのは「広島」で 143 人(47.0%)，次いで「福山・府中」52 人(17.1%)であった。一方，最も低かったのは「備北」で 12 人(3.9%)であった。(表 10)

表 10　　保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 採用状況

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	**既卒者**	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,101 (100.0)	304 (100.0)	6 (0.5)	2 (0.7)	30 (2.7)	7 (2.3)	1,014 (92.1)	275 (90.5)	51 (4.6)	20 (6.6)
広島	**601** **(54.6)**	**143** **(47.0)**	6 (0.5)	2 (0.7)	14 (1.3)	－ －	547 (49.7)	133 (43.8)	34 (3.1)	8 (2.6)
広島西	92 (8.4)	20 (6.6)	－ －	－ －	2 (0.2)	－ －	90 (8.2)	20 (6.6)	－ －	－ －
呉	101 (9.2)	18 (5.9)	－ －	－ －	2 (0.2)	－ －	97 (8.8)	14 (4.6)	2 (0.2)	4 (1.3)
広島中央	51 (4.6)	29 (9.5)	－ －	－ －	4 (0.4)	－ －	46 (4.2)	26 (8.6)	1 (0.1)	3 (1.0)
尾三	55 (5.0)	30 (9.9)	－ －	－ －	1 (0.1)	－ －	52 (4.7)	30 (9.9)	2 (0.2)	－ －
福山・府中	**173** **(15.7)**	**52** **(17.1)**	－ －	－ －	6 (0.5)	2 (0.7)	155 (14.1)	46 (15.1)	12 (1.1)	4 (1.3)
備北	**28** **(2.5)**	**12** **(3.9)**	－ －	－ －	1 (0.1)	5 (1.6)	27 (2.5)	6 (2.0)	－ －	1 (0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

4　正規・常勤看護職員の状況

1）　正規看護職員の平均年齢（令和 6 年 4 月 1 日現在）

令和 6 年 4 月 1 日現在の平均年齢は 42.4 歳で，平均年齢が最も低い病院は 31.8 歳，最も高い病院は 55.6 歳であった。（表 11-①）

平均年齢を保健医療圏域別にみると，「広島」で「35～39 歳」が最も多く，「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」で「40～44 歳」が最も多く，「広島西」「呉」で「45～49 歳」が最も多かった。（表 11-②）

平均年齢を病床規模別にみると，「99 床以下」では「40～44 歳」「45～49 歳」が最も多く，「100～199 床」では「40～44 歳」が最も多く，「200～299 床」では「45～49 歳」が最も多く，「300～399 床」「400～499 床」「500 床以上」では「35～39 歳」が最も多かった。（表 11-③）

表 11-①　　平均年齢（正規）

平均年齢	最も低い	最も高い
42.4 歳	31.8 歳	55.6 歳

注　令和 6 年 4 月 1 日現在の実績

表 11-②　　平均年齢別・保健医療圏域別 病院数（正規）（令和 6 年 4 月 1 日現在）

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	183 (100.0)	74 (40.4)	11 (6.0)	20 (10.9)	17 (9.3)	15 (8.2)	38 (20.8)	8 (4.4)
～29 歳	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
30～34 歳	12 (6.6)	6 (3.3)	－ －	3 (1.6)	－ －	－ －	3 (1.6)	－ －
35～39 歳	52 (28.4)	**33** (18.0)	3 (1.6)	1 (0.5)	3 (1.6)	2 (1.1)	8 (4.4)	2 (1.1)
40～44 歳	62 (33.9)	19 (10.4)	3 (1.6)	6 (3.3)	**9** (4.9)	**8** (4.4)	**14** (7.7)	**3** (1.6)
45～49 歳	52 (28.4)	14 (7.7)	**5** (2.7)	**9** (4.9)	5 (2.7)	5 (2.7)	13 (7.1)	1 (0.5)
50～54 歳	4 (2.2)	1 (0.5)	－ －	1 (0.5)	－ －	－ －	－ －	2 (1.1)
55 歳以上	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

注 1　令和 6 年 4 月 1 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 11-③　　平均年齢別・病床規模別 病院数（正規）（令和 6 年 4 月 1 日現在）

（単位：病院（%））

区分	計	99 床以下	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
計	183 (100.0)	65 (35.5)	70 (38.3)	23 (12.6)	14 (7.7)	4 (2.2)	7 (3.8)
～29 歳	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
30～34 歳	12 (6.6)	1 (0.5)	5 (2.7)	2 (1.1)	1 (0.5)	1 (0.5)	2 (1.1)
35～39 歳	52 (28.4)	9 (4.9)	22 (12.0)	8 (4.4)	**6** (3.3)	**2** (1.1)	**5** (2.7)
40～44 歳	62 (33.9)	**26** (14.2)	**28** (15.3)	4 (2.2)	4 (2.2)	－ －	－ －
45～49 歳	52 (28.4)	**26** (14.2)	13 (7.1)	**9** (4.9)	3 (1.6)	1 (0.5)	－ －
50～54 歳	4 (2.2)	2 (1.1)	2 (1.1)	－ －	－ －	－ －	－ －
55 歳以上	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

注 1　令和 6 年 4 月 1 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2）　常勤看護職員の時間外勤務

（1）　時間外勤務時間の平均と最長

令和 7 年 10 月の実績によれば、一人当たり月平均時間外勤務時間は 4.1 時間，最長は 66.4 時間であった。（表 12）

表 12　　一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）（令和 7 年 10 月実績）

平均	最長
4.1 時間	66.4 時間

注　令和 7 年 10 月の実績である

（２） 時間外勤務時間数・病床規模別病院数の割合

令和７年 10 月の実績によれば、病床規模別一人当たり月平均の時間外勤務時間数をみると，最も多かったのは「4 時間未満」で 106 病院(57.9%)，次いで「4～8 時間未満」で 49 病院(26.8%)であった。病床規模別の割合をみると「4 時間未満」と「4～8 時間未満」では「100～199 床」の割合が高かった。(表 13-①)

最長の時間外勤務時間数別病院数をみると，最も多かったのは「20 時間以上」で 70 病院(38.7%)，次いで「4 時間未満」で 35 病院(19.3%)であった。病床規模別の割合をみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「20 時間以上」であった。(表 13-②)

「20 時間以上」の内訳をみると，最も多かったのは 30～40 時間未満で 27 病院(38.6%)であった。(表 13-③)

表 13-①　病床規模別一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）（令和７年 10 月実績）

（単位：病院（%））

区分	計	4 時間未満	4～8 時間未満	8～12 時間未満	12～16 時間未満	16～20 時間未満	20 時間以上
計	183 (100.0)	106 (57.9)	49 (26.8)	20 (10.9)	6 (3.3)	－ －	2 (1.1)
99 床以下	65 (35.5)	36 (19.7)	17 (9.3)	6 (3.3)	4 (2.2)	－ －	2 (1.1)
100～199 床	70 (38.3)	44 (24.0)	18 (9.8)	7 (3.8)	1 (0.5)	－ －	－ －
200～299 床	23 (12.6)	15 (8.2)	4 (2.2)	4 (2.2)	－ －	－ －	－ －
300～399 床	14 (7.7)	9 (4.9)	3 (1.6)	2 (1.1)	－ －	－ －	－ －
400～499 床	4 (2.2)	1 (0.5)	3 (1.6)	－ －	－ －	－ －	－ －
500 床以上	7 (3.8)	1 (0.5)	4 (2.2)	1 (0.5)	1 (0.5)	－ －	－ －

注１　令和７年 10 月の実績である

注２　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 13-②　病床規模別一人当たり時間外勤務時間の最長時間数（常勤）（令和 7 年 10 月実績）

（単位：病院（%））

区分	計	**4 時間未満**	4～8 時間未満	8～12 時間未満	12～16 時間未満	16～20 時間未満	**20 時間以上**
計	181 (100.0)	**35** **(19.3)**	14 (7.7)	18 (9.9)	18 (9.9)	26 (14.4)	**70** **(38.7)**
99 床以下	63 (34.8)	18 (9.9)	5 (2.8)	7 (3.9)	6 (3.3)	9 (5.0)	18 (9.9)
100～199 床	70 (38.7)	10 (5.5)	8 (4.4)	8 (4.4)	8 (4.4)	9 (5.0)	27 (14.9)
200～299 床	23 (12.7)	6 (3.3)	－ －	2 (1.1)	4 (2.2)	4 (2.2)	7 (3.9)
300～399 床	14 (7.7)	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	－ －	4 (2.2)	7 (3.9)
400～499 床	4 (2.2)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	**4** **(2.2)**
500 床以上	7 (3.9)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	**7** **(3.9)**

注 1　令和 7 年 10 月の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 13-③　病床規模別一人当たり時間外勤務時間（最長 20 時間以上）（常勤）（令和 7 年 10 月実績）

（単位：病院（%））

区分	計	20～25 時間未満	25～30 時間未満	**30～40 時間未満**	40～50 時間未満	50～60 時間未満	60 時間以上
計	70 (100.0)	17 (24.3)	11 (15.7)	**27** **(38.6)**	9 (12.9)	3 (4.3)	3 (4.3)
99 床以下	18 (25.7)	5 (7.1)	4 (5.7)	5 (7.1)	2 (2.9)	1 (1.4)	1 (1.4)
100～199 床	27 (38.6)	6 (8.6)	4 (5.7)	9 (12.9)	5 (7.1)	1 (1.4)	2 (2.9)
200～299 床	7 (10.0)	2 (2.9)	－ －	5 (7.1)	－ －	－ －	－ －
300～399 床	7 (10.0)	2 (2.9)	－ －	3 (4.3)	2 (2.9)	－ －	－ －
400～499 床	4 (5.7)	2 (2.9)	－ －	2 (2.9)	－ －	－ －	－ －
500 床以上	7 (10.0)	－ －	3 (4.3)	3 (4.3)	－ －	1 (1.4)	－ －

注 1　令和 7 年 10 月の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 正規看護職員の年次有給休暇取得状況

（1） 一人平均取得日数

令和 6 年度の実績によれば年次有給休暇の一人平均取得日数の平均は 13.0 日，最多が 89.5 日，最少が 5.0 日であった。平均でみると平成 27 年度まで変動がなかったが，平成 28 年度から再び増加した。(表 14)

表 14　年次有給休暇一人平均取得日数の推移(令和 6 年度実績)

区分	平均	最多	最少
令和６年度	**13.0 日**	**89.5 日**	**5.0 日**
令和５年度	13.1 日	54.6 日	5.0 日
令和４年度	12.2 日	20.0 日	1.5 日
令和３年度	11.4 日	21.6 日	1.0 日
令和２年度	11.0 日	24.8 日	0.0 日
令和元年度	11.2 日	23.9 日	1.0 日
平成 30 年度	10.4 日	19.9 日	0.8 日
平成 29 年度	10.2 日	20.3 日	1.0 日
平成 28 年度	10.1 日	24.2 日	0.0 日
平成 27 年度	9.9 日	20.8 日	0.0 日
平成 26 年度	9.9 日	26.0 日	0.8 日
平成 25 年度	9.9 日	41.6 日	0.2 日

（2） 時間単位の取得

令和 6 年度の実績によれば年次有給休暇が時間単位で取得できる病院は 152 病院(83.5%)であった。割合でみると平成 26 年度より高くなっている。(表 15)

表 15　年次有給休暇，時間単位の取得病院数(令和 6 年度実績)

(単位：病院 (%))

区分	計		できる		できない	
令和６年度	182	(100.0)	**152**	**(83.5)**	30	(16.5)
令和５年度	178	(100.0)	141	(79.2)	37	(20.8)
令和４年度	184	(100.0)	150	(81.5)	34	(18.5)
令和３年度	196	(100.0)	155	(79.1)	41	(20.9)
令和２年度	193	(100.0)	152	(78.8)	41	(21.2)
令和元年度	191	(100.0)	150	(78.5)	41	(21.5)
平成 30 年度	185	(100.0)	144	(77.8)	41	(22.2)
平成 29 年度	185	(100.0)	143	(77.3)	42	(22.7)
平成 28 年度	190	(100.0)	144	(75.8)	46	(24.2)
平成 27 年度	189	(100.0)	136	(72.0)	53	(28.0)
平成 26 年度	191	(100.0)	88	(46.1)	103	(53.9)
平成 25 年度	209	(100.0)	96	(45.9)	113	(54.1)

（３） 所定年間休日数

令和 6 年度の実績によれば所定年間休日数は、「100 日未満」の病院は 2 病院(0.9%)あり、最も多かったのは、「120～130 日未満」78 病院(34,4%)であった。(表 16)

表 16　　所定年間休日数別 病院数(令和 6 年度実績)

(単位：病院 (%))

区分	病院数	
計	227	(100.0)
100 日未満	**2**	**(0.9)**
100～110 日未満	50	(22.0)
110～120 日未満	53	(23.3)
120～130 日未満	**78**	**(34.4)**
130 日以上	1	(0.4)
無回答	43	(18.9)

5　勤務形態からみた夜勤回数別夜勤人数

1）　常勤看護職員夜勤人数等

令和 7 年 10 月の実績によれば「3 交代（変則 3 交代含む)」で夜勤回数 0 回は 47 病院の 1,093 人，最も多かったのは夜勤回数 7 回以下で 56 病院の 1,732 人であった。「2 交代(変則 2 交代含む)」で夜勤回数 0 回は 127 病院の 2,204 人，最も多かったのは夜勤回数 5 回で 142 病院の 2,233 人であった。(表 17-①，表 17-②，表 17-③)

表 17-①　　常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）(令和 7 年 10 月実績)

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	**0 回**	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	**0 回**	3 回以下	4 回	**5 回**	6 回以上
病院数（単位:病院）	**47**	**56**	53	45	42	31	**127**	144	140	**142**	129
人数（単位:人）	**1,093**	**1,732**	1,507	998	555	407	**2,204**	1,498	2,116	**2,233**	2,119

注 1　常勤看護職員夜勤人数は「新卒含む/夜勤専従者を除く」数字である。

注 2　人数は,交代制勤務の指定夜勤回数に該当する看護職員数である。

注 3　夜勤回数は令和 7 年 10 月実績である。

表 17-②　　病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）(令和 7 年 10 月実績)

（単位：病院）

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	0 回	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	0 回	**3 回以下**	4 回	5 回	6 回以上
計	47	**56**	53	45	42	31	127	**144**	140	142	129
99 床以下	9	11	9	6	8	7	45	49	44	50	46
100～199 床	16	17	16	16	15	12	50	59	59	57	55
200～299 床	8	12	12	9	9	7	16	19	19	18	16
300～399 床	5	6	6	6	4	3	9	11	11	10	8
400～499 床	4	4	4	4	3	1	2	1	2	2	1
500 床以上	5	6	6	4	3	1	5	5	5	5	3

表 17-③　　病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤人数（複数回答）(令和 7 年 10 月実績)

（単位：人）

区分	3 交代（変則 3 交代含む）						2 交代（変則 2 交代含む）				
夜勤回数	0 回	**7 回以下**	8 回	9 回	10 回	11 回以上	0 回	3 回以下	4 回	**5 回**	6 回以上
計	1,093	**1,732**	1,507	998	555	407	2,204	1,498	2,116	**2,233**	2,119
99 床以下	48	78	56	38	30	41	348	202	258	304	297
100～199 床	427	268	194	211	144	118	866	415	583	757	734
200～299 床	143	170	86	128	114	66	277	239	347	364	321
300～399 床	164	417	478	146	36	17	292	223	266	277	229
400～499 床	134	369	286	169	113	20	40	54	54	11	27
500 床以上	177	430	407	306	118	145	381	365	608	520	511

2） 夜勤専従者の有無

令和 6 年度に夜勤専従者がいる病院は 80 病院(43.5%),「正規看護職員のみ」が 50 病院(27.2%),「正規以外看護職員のみ」が 14 病院(7.6%),「正規・正規以外看護職員」が 16 病院(8.7%)であった。(表 18-①)夜勤専従者数は,「実人員」が 1,551 人,「延べ人員」が「3 交代(変則 3 交代含む)」は 10,536 人,「2 交代(変則 2 交代含む)」は 22,253 人であった。(表 18-②)

表 18-①　夜勤専従者の有無(令和 6 年度)

(単位：病院（%）)

区分	計	夜勤専従者がいる	夜勤専従者がいない
計	184　(100.0)	**80　(43.5)**	104　(56.5)
正規看護職員のみ		**50　(27.2)**	104　(56.5)
正規以外看護職員のみ		**14　(7.6)**	
正規・正規以外看護職員		**16　(8.7)**	

注 1　令和 6 年度の実績である

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 18-②　夜勤専従者の人数(令和 6 年度)

(単位：人)

区分		実人員	延べ人員	
			3 交代 (変則 3 交代含む)	2 交代 (変則 2 交代含む)
計		**1,551**	**10,536**	**22,253**
正規看護職員のみ		471	7,239	13,947
正規以外看護職員のみ		37	566	766
正規・正規以外看護職員	正規看護職員	747	2,246	5,996
	正規以外看護職員	296	485	1,544

注　令和 6 年度の実績である

６　看護職員の採用状況

令和 6 年度の正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

１）　看護職員採用者数

令和 6 年度の採用者数は 2,400 人で，内訳をみると「正規看護職員」が「新卒者」1,020 人(42.5%)，「既卒者」965 人(40.2%)，「正規看護職員以外」は 415 人(17.3%)であった。(表 19)

表 19　　新卒者・既卒者別・職種別 採用者数（令和 6 年度）

（単位：人（%））

区分		計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計		**2,400　(100.0)**	9　(0.4)	46　(1.9)	2,163　(90.1)	182　(7.6)
正規看護職員	**新卒者数**	**1,020　(42.5)**	5　(0.2)	29　(1.2)	950　(39.6)	36　(1.5)
	既卒者数	**965　(40.2)**	3　(0.1)	11　(0.5)	868　(36.2)	83　(3.5)
正規看護職員以外		**415　(17.3)**	1　(0.0)	6　(0.3)	345　(14.4)	63　(2.6)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

２）　正規看護職員採用者数

（１）　保健医療圏域別採用者数

採用者数は「新卒者」が 1,020 人，「既卒者」が 965 人で，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で「新卒者」523 人(51.3%)，「既卒者」447 人(46.3%)であった。(表 20)

表 20　　保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況（令和 6 年度）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	**既卒者**	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	**1,020** (100.0)	**965** (100.0)	5 (0.5)	3 (0.3)	29 (2.8)	11 (1.1)	950 (93.1)	868 (89.9)	36 (3.5)	83 (8.6)
広島	**523** **(51.3)**	**447** **(46.3)**	－ －	1 (0.1)	13 (1.3)	1 (0.1)	497 (48.7)	412 (42.7)	13 (1.3)	33 (3.4)
広島西	86 (8.4)	58 (6.0)	－ －	－ －	2 (0.2)	－ －	84 (8.2)	54 (5.6)	－ －	4 (0.4)
呉	140 (13.7)	93 (9.6)	4 (0.4)	1 (0.1)	8 (0.8)	1 (0.1)	125 (12.3)	80 (8.3)	3 (0.3)	11 (1.1)
広島中央	43 (4.2)	98 (10.2)	－ －	－ －	2 (0.2)	2 (0.2)	37 (3.6)	85 (8.8)	4 (0.4)	11 (1.1)
尾三	47 (4.6)	57 (5.9)	－ －	1 (0.1)	－ －	3 (0.3)	47 (4.6)	50 (5.2)	－ －	3 (0.3)
福山・府中	157 (15.4)	189 (19.6)	1 (0.1)	－ －	4 (0.4)	2 (0.2)	136 (13.3)	167 (17.3)	16 (1.6)	20 (2.1)
備北	24 (2.4)	23 (2.4)	－ －	－ －	－ －	2 (0.2)	24 (2.4)	20 (2.1)	－ －	1 (0.1)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（２） 病床規模別採用者数

病床規模別に採用者数をみると,「新卒者」で最も多かったのは「500 床以上」で 377 人(37.0%),「既卒者」で最も多かったのは「100～199 床」で 378 人(39.2%)であった。(表 21)

表 21　病床規模別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況（令和 6 年度）

（単位：人（%））

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	**既卒者**	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,020 (100.0)	965 (100.0)	5 (0.5)	3 (0.3)	29 (2.8)	11 (1.1)	950 (93.1)	868 (89.9)	36 (3.5)	83 (8.6)
99 床以下	44 (4.3)	222 (23.0)	－ －	－ －	1 (0.1)	1 (0.1)	35 (3.4)	202 (20.9)	8 (0.8)	19 (2.0)
100～199 床	191 (18.7)	**378** **(39.2)**	－ －	1 (0.1)	－ －	－ －	176 (17.3)	357 (37.0)	15 (1.5)	20 (2.1)
200～299 床	117 (11.5)	157 (16.3)	1 (0.1)	－ －	1 (0.1)	2 (0.2)	102 (10.0)	124 (12.8)	13 (1.3)	31 (3.2)
300～399 床	159 (15.6)	131 (13.6)	4 (0.4)	2 (0.2)	4 (0.4)	5 (0.5)	151 (14.8)	111 (11.5)	－ －	13 (1.3)
400～499 床	132 (12.9)	45 (4.7)	－ －	－ －	5 (0.5)	1 (0.1)	127 (12.5)	44 (4.6)	－ －	－ －
500 床以上	**377** **(37.0)**	32 (3.3)	－ －	－ －	18 (1.8)	2 (0.2)	359 (35.2)	30 (3.1)	－ －	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 正規以外看護職員採用者数

（1） 保健医療圏域別採用者数

令和 6 年度の採用者数は 415 人で，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で 207 人(49.9%)であった。(表 22)

表 22　　保健医療圏域別　正規以外看護職員採用状況（令和 6 年度）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**415** (100.0)	1 (0.2)	6 (1.4)	345 (83.1)	63 (15.2)
広島	**207** **(49.9)**	1 (0.2)	1 (0.2)	174 (41.9)	31 (7.5)
広島西	27 (6.5)	－ －	1 (0.2)	26 (6.3)	－ －
呉	24 (5.8)	－ －	－ －	21 (5.1)	3 (0.7)
広島中央	38 (9.2)	－ －	1 (0.2)	30 (7.2)	7 (1.7)
尾三	41 (9.9)	－ －	－ －	32 (7.7)	9 (2.2)
福山・府中	64 (15.4)	－ －	－ －	52 (12.5)	12 (2.9)
備北	14 (3.4)	－ －	3 (0.7)	10 (2.4)	1 (0.2)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（2） 病床規模別採用者数

令和 6 年度の病床規模別に採用者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」で 195 人(47.0%)であった。(表 23)

表 23　　病床規模別 正規以外看護職員採用状況（令和 6 年度）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	415 (100.0)	1 (0.2)	6 (1.4)	345 (83.1)	63 (15.2)
99 床以下	64 (15.4)	－ －	－ －	51 (12.3)	13 (3.1)
100～199 床	**195** **(47.0)**	1 (0.2)	1 (0.2)	159 (38.3)	34 (8.2)
200～299 床	59 (14.2)	－ －	3 (0.7)	46 (11.1)	10 (2.4)
300～399 床	57 (13.7)	－ －	1 (0.2)	50 (12.0)	6 (1.4)
400～499 床	22 (5.3)	－ －	－ －	22 (5.3)	－ －
500 床以上	18 (4.3)	－ －	1 (0.2)	17 (4.1)	－ －

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

7　看護職員の離職状況

令和 6 年度の正規看護職員の離職状況は次のとおりである。

1）　正規看護職員離職者数

令和 6 年度の正規看護職員の離職者数は 2,017 人，内訳をみると定年退職者は 161 人(8.0%)，新卒離職者は 95 人（4.7%)であった。定年退職・新卒離職者以外は 1,761 人(87.3%)であった。（表 24）

表 24　　正規看護職員離職者数(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
離職者数	**2,017**	4	27	1,828	158
	(100.0)	(0.2)	(1.3)	(90.6)	(7.8)
(1) 定年退職者数	**161**	－	1	136	24
(定年退職者の割合)	**(8.0)**	－	(0.0)	(6.7)	(1.2)
(2) 新卒離職者数	**95**	－	－	87	8
(新卒離職者の割合)	**(4.7)**	－	－	(4.3)	(0.4)
(3) (1),(2)以外離職者数	**1,761**	4	26	1,605	126
((1),(2)以外離職者の割合)	**(87.3)**	(0.2)	(1.3)	(79.6)	(6.2)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（1）　保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

令和 6 年度の離職者数は 2,017 人で，離職率は 9.9%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」953 人，離職率が最も高かったのは「広島西」10.7%であった。（表 25）

表 25　　保健医療圏域別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**2,017**	**(9.9)**	4	27	1,828	158
広島	**953**	(9.9)	2	16	889	46
広島西	141	**(10.7)**	－	－	136	5
呉	204	(9.9)	1	4	175	24
広島中央	153	(9.7)	－	1	140	12
尾三	164	(9.1)	－	－	143	21
福山・府中	337	(9.8)	1	5	286	45
備北	65	(10.1)	－	1	59	5

注　離職者数は定年退職者を含む

（２） 病床規模別・職種別離職者数・離職率

令和 6 年度の病床規模別にみると，離職者数が最も多かったのは「100～199 床」669 人であった。離職率が最も高かったのも「100～199 床」で 12.9%であった。(表 26)

表 26　　病床規模別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	2,017	(9.9)	4	27	1,828	158
99 床以下	264	(12.4)	1	2	222	39
100～199 床	**669**	**(12.9)**	1	－	616	52
200～299 床	302	(9.6)	－	1	254	47
300～399 床	277	(8.3)	1	4	252	20
400～499 床	133	(8.4)	－	6	127	－
500 床以上	372	(7.3)	1	14	357	－

注　離職者数は定年退職者を含む

２） 定年退職者数

（１） 保健医療圏域別・職種別定年退職者数

令和 6 年度の定年退職者数は 161 人で，保健医療圏別にみると，最も多かったのは「広島」44 人(27.3%)，うち 44 人が「看護師」であった。(表 27)

表 27　　保健医療圏域別・職種別 正規看護職員定年退職者数(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	**161**	(100.0)	－	1	136	24
広島	**44**	**(27.3)**	－	－	**44**	－
広島西	3	(1.9)	－	－	3	－
呉	19	(11.8)	－	1	14	4
広島中央	20	(12.4)	－	－	19	1
尾三	34	(21.1)	－	－	26	8
福山・府中	34	(21.1)	－	－	25	9
備北	7	(4.3)	－	－	5	2

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（２） 病床規模別・職種別定年退職者数

令和 6 年度の病床規模別定年退職者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」で 35 人(21.7%)，次いで「200～299 床」32 人(19.9%)であった。(表 28)

表 28　　病床規模別・職種別 正規看護職員定年退職者数(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	161	(100.0)	－	1	136	24
99 床以下	26	(16.1)	－	－	21	5
100～199 床	**35**	**(21.7)**	－	－	28	7
200～299 床	**32**	**(19.9)**	－	－	24	8
300～399 床	31	(19.3)	－	－	27	4
400～499 床	10	(6.2)	－	1	9	－
500 床以上	27	(16.8)	－	－	27	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

３） 新卒看護職員の離職者数・離職率

令和 6 年度の新卒看護職員の離職者数は 95 人，離職率は 9.3%であった。保健医療圏域別にみると，離職率が最も高かったのは「広島中央」で 14.0%であった。最も低かったのは「備北」で 0%であった。(表 29-①)

病床規模別にみると，離職率が最も高かったのは「99 床以下」で 22.7%であった。最も低かったのは「400～499 床」で 2.3%であった。(表 29-②)

表 29-①　　保健医療圏域別 正規看護職員新卒離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計 (離職率)	広島	広島西	呉	**広島 中央**	尾三	福山・ 府中	**備北**
新卒採用者数	1,020	523	86	140	43	47	157	24
新卒離職者数	**95**	56	1	13	6	2	17	0
離職率(%)	**(9.3)**	(10.7)	(1.2)	(9.3)	**(14.0)**	(4.3)	(10.8)	**(0.0)**

表 29-②　　病床規模別・職種別 正規看護職員新卒離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計 (離職率)	**99 床 以下**	100～ 199 床	200～ 299 床	300～ 399 床	**400～ 499 床**	500 床 以上
新卒採用者数	1,020	44	191	117	159	132	377
新卒離職者数	95	10	31	12	13	3	26
離職率(%)	(9.3)	**(22.7)**	(16.2)	(10.3)	(8.2)	**(2.3)**	(6.9)

４） 定年退職及び新卒離職以外の離職者数

（１） 保健医療圏域別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

令和 6 年度の保健医療圏域別離職者数をみると，最も多かったのは「広島」853 人(48.4%)，うち 794 人が「看護師」であった。(表 30)

表 30　保健医療圏域別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	1,761	(100.0)	4	26	1,605	126
広島	**853**	**(48.4)**	2	16	**794**	41
広島西	137	(7.8)	－	－	132	5
呉	172	(9.8)	1	3	148	20
広島中央	127	(7.2)	－	1	116	10
尾三	128	(7.3)	－	－	115	13
福山・府中	286	(16.2)	1	5	246	34
備北	58	(3.3)	－	1	54	3

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（２） 病床規模別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

令和 6 年度の病床規模別離職者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」603 人(34.2%)，うち 559 人が「看護師」であった。次いで「500 床以上」319 人(18.1%)，うち 304 人が「看護師」であった。(表 31)

表 31　病床規模別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計		保健師	助産師	**看護師**	准看護師
計	1,761	(100.0)	4	26	1,605	126
99 床以下	228	(12.9)	1	2	193	32
100～199 床	**603**	**(34.2)**	1	－	**559**	43
200～299 床	258	(14.7)	－	1	222	35
300～399 床	233	(13.2)	1	4	212	16
400～499 床	120	(6.8)	－	5	115	－
500 床以上	**319**	**(18.1)**	1	14	**304**	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

５） 正規以外看護職員離職者数

（１） 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

令和 6 年度の離職者数は 402 人で，離職率は 17.3%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」で 187 人，離職率が最も高かったのは「広島西」で 25.4%であった。(表 32)

表 32　　保健医療圏域別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	**402**	**(17.3)**	－	3	344	55
広島	**187**	(18.6)	－	－	163	24
広島西	31	**(25.4)**	－	1	30	－
呉	28	(11.0)	－	1	23	4
広島中央	32	(15.4)	－	－	27	5
尾三	41	(17.1)	－	－	34	7
福山・府中	67	(17.3)	－	－	55	12
備北	16	(15.2)	－	1	12	3

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

（２） 病床規模別・職種別離職者数・離職率

令和 6 年度の病床規模別にみると，離職者数が最も多かったのは「100～199 床」で 184 人であった。離職率が最も高かったのも「100～199 床」で 21.9%であった。(表 33)

表 33　　病床規模別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計（離職率）		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	402	(17.3)	－	3	344	55
99 床以下	63	(16.1)	－	－	50	13
100～199 床	**184**	**(21.9)**	－	－	156	28
200～299 床	53	(13.5)	－	1	45	7
300～399 床	49	(18.0)	－	－	42	7
400～499 床	15	(11.4)	－	－	15	－
500 床以上	38	(13.1)	－	2	36	－

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

8　特別休暇等の取得状況

令和 6 年度の正規看護職員の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1）　育児休業取得職員数

（1）　保健医療圏域別・職種別育児休業取得職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば育児休業取得職員数は 1,234 人(6.0%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」671 人，うち 638 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」205 人，うち 192 人が「看護師」であった。(表 34)

表 34　　保健医療圏域別・職種別 育児休業取得職員数（実人員）(令和 7 年 3 月 31 日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9　(100.0)	79.5　(0.4)	454.5　(2.2)	18,647.4　(91.3)	1,246.5　(6.1)
計	**1,234　(6.0)**	2　(0.0)	38　(0.2)	1,136　(5.6)	58　(0.3)
広島	**671　(3.3)**	－	15	**638**	18
広島西	98　(0.5)	－	4	92	2
呉	97　(0.5)	1	2	92	2
広島中央	68　(0.3)	－	3	64	1
尾三	66　(0.3)	－	1	33	32
福山・府中	**205　(1.0)**	－	10	**192**	3
備北	29　(0.1)	1	3	25	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（2）　病床規模別・職種別育児休業取得職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば病床規模別の育児休業取得職員数をみると，最も多かったのは「500 床以上」435 人，うち 417 人が「看護師」であった。次いで「100～199 床」262 人，うち 253 人が「看護師」であった。(表 35)

表 35　　病床規模別・職種別 育児休業取得職員数（実人員）(令和 7 年 3 月 31 日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9　(100.0)	79.5　(0.4)	454.5　(2.2)	18,647.4　(91.3)	1,246.5　(6.1)
計	1,234　(6.0)	2　(0.0)	38　(0.2)	1,136　(5.6)	58　(0.3)
99 床以下	85　(0.4)	－	2	73	10
100～199 床	**262　(1.3)**	－	－	**253**	9
200～299 床	169　(0.8)	1	6	159	3
300～399 床	188　(0.9)	1	9	142	36
400～499 床	95　(0.5)	－	3	92	－
500 床以上	**435　(2.1)**	－	18	**417**	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2） 介護休業取得職員数

（1） 保健医療圏域別・職種別介護休業取得職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば介護休業取得職員数は 9 人(0.0%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」「尾三」3 人で，うちすべてが「看護師」であった。（表 36）

表 36　保健医療圏域別・職種別 介護休業取得職員数（実人員）（令和 7 年 3 月 31 日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	**9** (0.0)	－ －	－ －	9 (0.0)	－ －
広島	**3** (0.0)	－	－ －	**3**	－
広島西	1 (0.0)	－	－ －	1	－
呉	1 (0.0)	－	－ －	1	－
広島中央	－ －	－	－ －	－	－
尾三	**3** (0.0)	－	－ －	**3**	－
福山・府中	1 (0.0)	－	－ －	1	－
備北	－ －	－	－ －	－	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（2） 病床規模別・職種別介護休業取得職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば病床規模別の介護休業取得職員数をみると，最も多かったのは「300～399 床」4 人で,うちすべてが「看護師」であった。(表 37)

表 37　病床規模別・職種別 介護休業取得職員数（実人員）（令和 7 年 3 月 31 日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	9 (0.0)	－ －	－ －	9 (0.0)	－ －
99 床以下	－ －	－	－	－	－
100～199 床	1 (0.0)	－	－	1	－
200～299 床	1 (0.0)	－	－	1	－
300～399 床	**4** (0.0)	－	－	**4**	－
400～499 床	1 (0.0)	－	－	1	－
500 床以上	2 (0.0)	－	－	2	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 時間短縮勤務職員数

（1） 保健医療圏域別・職種別時間短縮勤務職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば時間短縮勤務職員数は 1,125 人(5.5%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」622 人，うち 605 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」201 人，うち 189 人が「看護師」であった。(表 38)

表 38　保健医療圏域別・職種別 時間短縮勤務中の職員数（実人員）(令和 7 年 3 月 31 日現在の実績)

(単位：人（%）)

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	**1,125 (5.5)**	6 (0.0)	24 (0.1)	1,080 (5.3)	15 (0.1)
広島	**622 (3.0)**	2	13	**605**	2
広島西	90 (0.4)	－	1	85	4
呉	63 (0.3)	2	－	60	1
広島中央	75 (0.4)	－	3	71	1
尾三	51 (0.2)	－	2	49	－
福山・府中	**201 (1.0)**	1	4	**189**	7
備北	23 (0.1)	1	1	21	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（2） 病床規模別・職種別時間短縮勤務職員数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば病床規模別に時間短縮勤務職員数をみると，最も多かったのは「500 床以上」406 人，うち 396 人が「看護師」であった。次いで「100～199 床」216 人，うち 211 人が「看護師」であった。(表 39)

表 39　病床規模別・職種別 時間短縮勤務中の職員数（実人員）(令和 7 年 3 月 31 日現在の実績)

(単位：人（%）)

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	1,125 (5.5)	6 (0.0)	24 (0.1)	1,080 (5.3)	15 (0.1)
99 床以下	92 (0.4)	－	1	84	7
100～199 床	**216 (1.1)**	－	－	**211**	5
200～299 床	139 (0.7)	4	1	131	3
300～399 床	143 (0.7)	2	7	134	－
400～499 床	129 (0.6)	－	5	124	－
500 床以上	**406 (2.0)**	－	10	**396**	－

注 1　令和 7 年 3 月 31 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

４） 病休・休職等職員数

（１） 保健医療圏域別・職種別病休・休職等職員数

令和 6 年度の病休・休職等職員数は 630 人(3.1%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」279 人，うち 261 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」169 人，うち 148 人が「看護師」であった。(表 40)

表 40　保健医療圏域別・職種別 病休・休職等職員数（実人員）(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	**630 (3.1)**	－ －	15 (0.1)	570 (2.8)	45 (0.2)
広島	**279** (1.4)	－	10	**261**	8
広島西	30 (0.1)	－	－	30	－
呉	58 (0.3)	－	1	48	9
広島中央	50 (0.2)	－	－	46	4
尾三	29 (0.1)	－	1	22	6
福山・府中	**169** (0.8)	－	3	**148**	18
備北	15 (0.1)	－	－	15	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（２） 病床規模別・職種別病休・休職等職員数

令和 6 年度の病床規模別の病休・休職等職員数をみると，最も多かったのは「500 床以上」202 人，うち 195 人が「看護師」であった。次いで「100～199 床」133 人，うち 115 人が「看護師」であった。(表 41)

表 41　病床規模別・職種別 病休・休職等職員数（実人員）(令和 6 年度)

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	**看護師**	准看護師
平均正規看護職員数	20,427.9 (100.0)	79.5 (0.4)	454.5 (2.2)	18,647.4 (91.3)	1,246.5 (6.1)
計	630 (3.1)	－ －	15 (0.1)	570 (2.8)	45 (0.2)
99 床以下	51 (0.2)	－	1	41	9
100～199 床	**133** (0.7)	－	－	**115**	18
200～299 床	81 (0.4)	－	1	68	12
300～399 床	109 (0.5)	－	2	101	6
400～499 床	54 (0.3)	－	4	50	－
500 床以上	**202** (1.0)	－	7	**195**	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

９　母性保護，育児・介護休業に関する制度について

１）　制度の導入・利用について

（１）　母性保護制度の導入・利用の有無

令和 6 年度に母性保護制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は 163 病院(88.6%)であった。「はい」と回答した病院のうち，最も多く導入されている制度は「夜勤・当直免除」で，152 病院であった。最も多く利用があった制度も「夜勤・当直免除」で，129 病院であった。(表 42)

表 42　　母性保護制度の導入の有無(令和 6 年度)

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**163**	**(88.6)**
いいえ	21	(11.4)

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
夜勤・当直免除	**152**	**129**
夜勤・当直日数減	149	120
超過勤務免除	127	86
変形労働時間の適用除外	84	50
時差通勤	80	35
つわり休暇	57	32
通院休暇（保健指導・検診受診時間の確保等）	92	52
配置転換	117	48

「その他導入している制度の具体的内容」
・母性健康管理指導事項カードの症状に対応する業務負担軽減等の措置
・生理休暇
・危険有害業務の就業制限
・休日勤務の制限
・業務軽減、休息、補食、通勤緩和、妊産疾病休暇
・不妊治療休暇の取得可能
・本人の希望により柔軟に対応

（２） 育児休業制度の導入・利用の有無

令和 6 年度に育児休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は 184 病院(100%)であった。最も多く導入されている制度は「育児休業」で，183 病院であった。最も多く利用があった制度も「育児休業」で，166 病院であった。(表 43)

表 43　育児休業制度の導入の有無(令和 6 年度)

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**184**	**(100.0)**
いいえ	－	－

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
育児休業	**183**	**166**
子の看護等休暇	174	148
所定外労働の制限	143	95
時間外労働制限	144	93
深夜業の制限	163	125
短時間勤務	174	137
フレックスタイム制	23	8
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	100	67
テレワーク	7	0
託児施設の設置運営	85	80

「その他導入している制度の具体的内容」
・同法人内に託児施設あり
・申請により時短就業可能
・出生サポート休暇(妻が出産する場合の休暇)育児参加のための休暇
・出産時育児休業
・制度はないが時間調整や在宅勤務など配慮している
・病児保育の体制整備をしている
・始業時間、終業時間の繰上、繰下は短時間勤務の場合のみ導入あり
・始業、終業時間の繰上、繰下は本人の希望により対応している
・子の看護等休暇は公休または有休使用
・短時間勤務は希望があれば可能
・隣接している保育所と提携しているので職員枠で入所が可能
・短時間勤務は子が小学校入学前まで可能

（３） 介護休業制度の導入・利用の有無

令和 6 年度に介護休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は 183 病院(99.5%)であった。「はい」と回答した病院のうち，最も多く導入されている制度は「介護休暇」で 178 病院であった。最も多く利用があった制度も「介護休暇」で 101 病院であった。(表 44)

表 44　介護休業制度の導入の有無(令和 6 年度)

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	184	(100.0)
※はい	**183**	**(99.5)**
いいえ	1	(0.5)

※「はい」の内容（複数回答）

制　　度	導入がある	利用がある
介護休業	176	78
介護休暇	**178**	**101**
時間外労働の制限	135	29
深夜業の制限	144	38
短時間勤務	136	30
フレックスタイム制	24	3
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	77	18
テレワーク	7	1
介護サービス費用の助成	7	3
「その他導入している制度の具体的内容」 ・始業、終業時間の繰上、繰下については個別に対応している		

１０　研修体制やキャリアアップに関する支援

１）教育研修体制

令和 7 年度の「継続教育研修プログラム」が「あり」は 134 病院(73.6%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 45-①)

「看護部門における教育研修責任者の配置」が「あり」は 154 病院(84.6%)であった。病床規模別にみると「300～399 床」「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 45-②)

「病棟・外来などでの教育担当者の配置」が「あり」は 151 病院 (85.3%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」ではすべての病院が「あり」であった。(表 45-③)

「新規採用者の教育研修計画」を対象者別にみると「新卒採用者」で「あり」は 142 病院(81.1%)，うち「厚労省のガイドラインに沿った研修体制」が「あり」は 112 病院(64.0%)であった。「既卒採用者」で「あり」は 148 病院(84.6%)，「看護補助者」で「あり」は 143 病院(81.7%)であった。病床規模別にみると「新卒採用者」「既卒採用者」「看護補助者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 45-④)

表 45-①　病床規模別継続教育研修プログラム(令和 7 年度)

(単位：病院（%）)

区分	計		あり	なし
計	182	(100.0)	**134** **(73.6)**	48 (26.4)
99 床以下	64	(35.2)	34	30
100～199 床	70	(38.5)	58	12
200～299 床	23	(12.6)	19	4
300～399 床	14	(7.7)	12	2
400～499 床	4	(2.2)	**4**	－
500 床以上	7	(3.8)	**7**	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 45-②　病床規模別看護部門における教育研修責任者の配置(令和 7 年度)

(単位：病院（%）)

区分	計		あり			なし
			計	専従	兼任	
計	182	(100.0)	**154** **(84.6)**	15 (8.2)	139 (76.4)	28 (15.4)
99 床以下	64	(35.2)	46	1	45	18
100～199 床	70	(38.5)	61	1	60	9
200～299 床	23	(12.6)	22	2	20	1
300～399 床	14	(7.7)	**14**	3	11	－
400～499 床	4	(2.2)	**4**	2	2	－
500 床以上	7	(3.8)	**7**	6	1	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 45-③　病床規模別病棟・外来などでの教育担当者の配置(令和 7 年度)

（単位：病院（%））

区分	計		あり			なし
			計	専従	兼任	
計	177	(100.0)	**151** **(85.3)**	－ －	151 (85.3)	26 (14.7)
99 床以下	61	(34.5)	52	－	52	9
100～199 床	69	(39.0)	56	－	56	13
200～299 床	23	(13.0)	22	－	22	1
300～399 床	14	(7.9)	12	－	12	2
400～499 床	3	(1.7)	**3**	－	3	－
500 床以上	7	(4.0)	6	－	6	1

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 45-④　病床規模別新規採用者の教育研修計画(令和 7 年度)

（単位：病院（%））

区分	計		新卒採用者				既卒採用者		看護補助者			
			あり			なし	あり	なし	新規採用者の教育研修計画		研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	
			計	厚労省のｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに沿った研修体制 あり	厚労省のｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに沿った研修体制 なし				あり	なし	あり	なし
計	175	(100.0)	**142** **(81.1)**	**112** **(64.0)**	30 (17.1)	33 (18.9)	**148** **(84.6)**	35 (20.0)	**143** **(81.7)**	40 (22.9)	142 (81.1)	37 (21.1)
99 床以下	63	(36.0)	41	24	17	22	47	18	43	22	39	23
100～199 床	66	(37.7)	57	48	9	9	61	9	60	10	59	10
200～299 床	22	(12.6)	20	19	1	2	19	4	20	3	21	2
300～399 床	14	(8.0)	14	11	3	－	10	4	9	5	12	2
400～499 床	4	(2.3)	4	4	－	－	4	－	4	－	4	－
500 床以上	6	(3.4)	6	6	－	－	7	－	7	－	7	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

２） キャリアアップのための支援について

（１） 進学や資格取得支援制度の有無

令和 7 年度に進学や資格取得のための支援制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は 154 病院(85.6%)であった。(表 46)

表 46　　進学や資格取得のための支援制度導入の有無(令和 7 年度)

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	180	(100.0)
※はい	**154**	**(85.6)**
いいえ	26	(14.4)

（２） 進学や資格取得支援制度の内容

進学のための支援制度の内容をみると,「大学,大学院等」,「看護師養成所(通信制含む)」ともに「勤務調整」が最も多かった。次いで「看護師養成所(通信制含む)」では「奨学金制度」が多かった。(表 47)

資格取得のための支援制度の内容をみると，各資格取得では「勤務調整」が最も多かった。(表 48)

表 47　　進学のための支援制度の内容（複数回答）(令和 7 年度)

区分	**奨学金制度**	休職制度	**勤務調整**	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
大学，大学院等	21	23	**37**	3	8	6
看護師養成所(通信制含む)	**64**	24	**80**	7	9	19

表 48　　資格取得のための支援制度の内容（複数回答）(令和 7 年度)

区分	奨学金制度	休職制度	**勤務調整**	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
看護管理者	13	5	**109**	4	76	90
専門看護師	12	14	**42**	4	26	26
認定看護師	22	19	**85**	14	71	81
特定行為研修	14	12	**65**	11	51	63
国内外留学	1	－	**8**	－	1	1

１１　働きやすい職場づくりのための取り組み

１）働きやすい職場づくりのために取り組んでいる事

働きやすい職場づくりのために取り組んでいる事について「ワークライフバランスに配慮する必要性について、管理職に徹底を図っている」と回答した病院は 117 病院であった。

次いで「ワークライフバランス支援制度に関する情報提供を行っている」が 108 病院であった。（表 49）

表 49　　働きやすい職場づくりのために取り組んでいる事

区分	はい	いいえ
①ワークライフバランス支援への取り組みが、経営理念や人事の方針として明文化されている	83	97
②ワークライフバランスの促進のために、施設内で推進体制をつくっている	93	87
③ワークライフバランスの推進をモニタリングしている	65	115
④ワークライフバランスに配慮する必要性について、管理職に徹底を図っている	117	63
⑤ワークライフバランス支援制度に関する情報提供を行っている	108	72
⑥全職員に対してワークライフバランスの理解を深める働きかけを行っている	100	80

⑦その他(独自の取り組み等)

【ワークライフバランスの推進】

- 制度の説明を行い、申請から取得への支援をしているが、その効果についてはモニタリングできていない。制度利用者への周囲の協力応援を図ることで理解を深める一助とはなっている
- 今期、社労士より説明を受ける時間を設けた。1 人でも多くの職員が聞けるよう 3 度同じ説明会をしてもらう。今後院内では相談しづらい時、社労士に直接相談できるよう窓口を増やした

【勤務環境整備】

＜ワークライフバランスを考慮した多様な勤務希望の受け入れ＞

- 勤務表作成時、可能な限り希望を聞いて作成する。職員に目配り声掛けを行い無理にならないよう勤務表作成を行っていく
- 正社員のフレキシブルな勤務形態の導入
- 夜勤回数の増減や、「準夜のみ」「深夜のみ」なども可能にしている
- 可能な限り月 3 日は勤務希望を聞いている
- 子供のお迎えがある時は、業務内容を軽減する配慮をしている
- 子育て中の職員の配置については負担軽減を本人と相談している
- オリジナルはない。育休復帰者の時短勤務、フレックスタイム出勤がしやすい。
- 各々のライフスタイルや家庭状況に応じた多様な勤務体制を選択できるようにしている
- 時短勤務(小学校 1 年生まで活用可)
- 長期休み時(学校の夏休み等)、勤務時間の調整
- 勤務スケジュールを作成する際は、正循環とインターバルを取り入れ労働時間の配慮を行っている。勤務体制で 2 交替、3 交替を選択できるシステムを取り入れている

＜休暇取得の推進＞
・　長期休暇(1 週間連続)を年一回取得促進
・　リフレッシュ休暇
・　年休の取得
・　週休 3 日制を試行中
・　看護部のみで、有休の全消化を目標にしている
・　全ての職員に休日、有給を消化してもらうよう早めに提案している。出来る限り連休がとれるよう各部の勤務作成者が配慮している
・　休み希望は全て聞き入れる
・　有給休暇の内、年 5 日の範囲内で時間有休の取得が可能
・　年に 1 回誕生日月に誕生日休暇を付与
・　年休の取得を 1 時間単位にしている。勤務スケジュールを作成する際は、正循環とインターバルを取り入れ労働時間の配慮を行っている。勤務体制で 2 交替、3 交替を選択できるシステムを取り入れている
・　年次有給休暇の付与がない、または残日数がない職員(労働時間の条件あり)に対し、1 年間に 3 日を限度にボーナス特別休暇を取得できる(1 時間単位可、入職日より該当する)
・　有給休暇の取得促進
・　連続 5 日以上の休み取得(7 日以上の計画的取得可)
・　休日の日勤、早出、夜勤明けなど、病棟が落ち着いていれば 1 時間年休取得できるようにした
・　祝日勤務の代休取得制
＜時間外勤務削減＞
・　毎週木曜日にノー残業デーを設けている
・　時間外労働の短縮を図り、毎月データを取得するようにしている
・　時間外労働にならないよう業務改善に取り組む
【多職種との協働】
・　看護補助者の確保を行い、他職種との協働を行っている
・　院内留学(他部署の働き方を知る)
【子育て支援】
＜託児・保育の充実＞
・　24 時間保育室完備
・　託児所の設置
・　病児保育、病後保育の実施
・　24 時間対応可能な託児室完備(3 歳まで)
・　日祝、夜間、長期休みの場合小学校低学年まで対応
・　在籍外児も対応
＜その他＞
・　保育費用の補助(上限あり)
・　子育て支援導入

【体制整備】
- 院内の応援体制
- 5Sの推進
- 看護補助者の採用により看護師のタスクシフト
- 応援業務の体制整備
- 看護部長、副看護部長で毎日ラウンドしている
- 部署間でのリリーフ体制
- 65歳以上の職員を採用し、看護師の場合は外まわりのアナムネ聴取や入浴介助などしてもらう。無資格者は補助者の補助という形で簡単な仕事をしてもらっている(患者の見守り、環境整備、補充など)。65歳以上の職員を1～2hの短時間パートで朝夕飯時の人手が欲しい時間帯に配置している
- 業務改善ワーキングを行っている
- 部署間の応援体制の仕組みがある
- 副看護師長会の小集団活動で離職防止、労務管理グループを作り働きやすい職場づくりのための活動を実施している
- ストレスチェックの実施と結果のフィードバックを実施している
- DiNQL活用、チャレンジ活用
- ほめられ上手ほめ上手の会(承認の場)
- 看護職員の負担軽減を目的とした業務分担推進委員会を設置し、年２回の会議を通して理念の浸透や現場の意見収集に努めている
- 広島県版自己点検ツールチャレンジの結果を分析し課題を抽出。課題解決に向けての取り組みを事業計画に反映させる
- 入院3件以上で手当て支給(地ケア病棟)
- 技能実習制度の導入

【教育・研修・人材育成】
- ハラスメント、メンタルヘルス研修の実施を全職員対象に表記している
- 研修費全額支給

【新採用者支援】
- 離職者があった場合の補充
- 職員紹介制度

【意見・要望の聴取】
- 職員満足度調査。全看護職員を順番に看護部長の個人面談
- ストレスチェックの実施と結果のフィードバックを実施している
- 目標管理面接を行い、スタッフが目標達成できるように支援している
- キャリア意向調査、看護部長面接
- コンサルによる職員へのヒアリング
- 改善委員会により職務全体、看護部で職場の環境について意見交換を行い改善を図っている
- 1回/3ヶ月、所属長の面談を実施。入職後の職員の個別面談を定期的に行う

【職場風土の醸成】
- 人材配置制度を利用していない職員への労いの声掛け

【福利厚生】
- 職員宿舎の貸出し(入居期間10年への延長)
- 体調不良時には早めに報告し当院受診(ＰＣＲ検査を含む)できる体制であり健康管理に配慮し対応している
- 年に1回部署単位での親睦会の費用を一人5,000円支給している(2025年度)
- 業務にて感染症罹患時は治療費免除

１２　働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

１）働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題について最も多かったのは「代替職員の確保」131 病院(25.7%),次いで「制度を利用していない職員との不公平感」80 病院(15.7%),次いで「業務が忙しく取り組む余裕がない」62 病院(12.2%)であった。(表 50)

表 50　　働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計	
計	510	(100.0)
進め方がわからない	11	(2.2)
相談先がわからない	6	(1.2)
効果が不透明	18	(3.5)
代替職員の確保	**131**	**(25.7)**
制度を利用していない職員との不公平感	**80**	**(15.7)**
保育サービスの不足	35	(6.9)
職員が制度を利用しない	3	(0.6)
業務が忙しく取り組む余裕がない	**62**	**(12.2)**
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	3	(0.6)
コストの増加	58	(11.4)
業務効率の悪化	51	(10.0)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	21	(4.1)
院長等トップの理解がない	14	(2.7)
特に問題はない	7	(1.4)
その他	10	(2.0)

「その他」の具体的内容
- 看護師不足、定着しない
- 人事考課がない
- 職員が不足している
- 夜勤が出来る人がいない
- 法人との関係もあり病院だけで解決しない
- 医療ＤＸにかかるコストが高い
- マンパワー不足
- 必要時いつでも上司と個別面接できる

（１） 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題を保健医療圏域別にみると，「広島」「広島西」「呉」「尾三」「福山・府中」は「代替職員の確保」が最も多かった。「広島中央」は「代替職員の確保」「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。「備北」は「業務が忙しく取り組む余裕がない」が最も多かった。（表 51）

表 51　　保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	510 (100.0)	211 (100.0)	30 (100.0)	56 (100.0)	47 (100.0)	43 (100.0)	103 (100.0)	20 (100.0)
進め方がわからない	11 (2.2)	6 (2.8)	1 (3.3)	－ －	－ －	－ －	4 (3.9)	－ －
相談先がわからない	6 (1.2)	2 (0.9)	－ －	1 (1.8)	－ －	－ －	3 (2.9)	－ －
効果が不透明	18 (3.5)	5 (2.4)	2 (6.7)	3 (5.4)	3 (6.4)	1 (2.3)	3 (2.9)	1 (5.0)
代替職員の確保	131 (25.7)	**56** **(26.5)**	**8** **(26.7)**	**16** **(28.6)**	**10** **(21.3)**	**13** **(30.2)**	**24** **(23.3)**	4 (20.0)
制度を利用していない職員との不公平感	80 (15.7)	35 (16.6)	3 (10.0)	6 (10.7)	**10** **(21.3)**	7 (16.3)	16 (15.5)	3 (15.0)
保育サービスの不足	35 (6.9)	14 (6.6)	2 (6.7)	4 (7.1)	5 (10.6)	4 (9.3)	6 (5.8)	－ －
職員が制度を利用しない	3 (0.6)	－ －	－ －	－ －	1 (2.1)	－ －	－ －	2 (10.0)
業務が忙しく取り組む余裕がない	62 (12.2)	25 (11.8)	3 (10.0)	12 (21.4)	2 (4.3)	4 (9.3)	10 (9.7)	**6** **(30.0)**
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	3 (0.6)	2 (0.9)	－ －	－ －	－ －	－ －	1 (1.0)	－ －
コストの増加	58 (11.4)	28 (13.3)	4 (13.3)	4 (7.1)	6 (12.8)	5 (11.6)	11 (10.7)	－ －
業務効率の悪化	51 (10.0)	14 (6.6)	5 (16.7)	5 (8.9)	6 (12.8)	6 (14.0)	13 (12.6)	2 (10.0)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	21 (4.1)	6 (2.8)	1 (3.3)	3 (5.4)	2 (4.3)	2 (4.7)	7 (6.8)	－ －
院長等トップの理解がない	14 (2.7)	9 (4.3)	－ －	2 (3.6)	－ －	1 (2.3)	2 (1.9)	－ －
特に問題はない	7 (1.4)	4 (1.9)	1 (3.3)	－ －	1 (2.1)	－ －	－ －	1 (5.0)
その他	10 (2.0)	5 (2.4)	－ －	－ －	1 (2.1)	－ －	3 (2.9)	1 (5.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

（２） 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

病床規模別にみると，「99 床以下」「100～199 床」「200～299 床」「300～399 床」「400～499 床」では「代替職員の確保」が最も多く，「500 床以上」では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。（表 52）

表 52　　病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

（単位：病院（%））

区分	計	99 床以下	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
計	510 (100)	188 (100.0)	190 (100.0)	62 (100.0)	39 (100.0)	11 (100.0)	20 (100.0)
進め方がわからない	11 (2.2)	7 (3.7)	4 (2.1)	－ －	－ －	－ －	－ －
相談先がわからない	6 (1.2)	6 (3.2)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
効果が不透明	18 (3.5)	9 (4.8)	5 (2.6)	1 (1.6)	2 (5.1)	1 (9.1)	－ －
代替職員の確保	131 (25.7)	**41** **(21.8)**	**51** **(26.8)**	**19** **(30.6)**	**11** **(28.2)**	**4** **(36.4)**	5 (25.0)
制度を利用していない職員との不公平感	80 (15.7)	20 (10.6)	29 (15.3)	15 (24.2)	7 (17.9)	3 (27.3)	**6** **(30.0)**
保育サービスの不足	35 (6.9)	7 (3.7)	20 (10.5)	4 (6.5)	1 (2.6)	1 (9.1)	2 (10.0)
職員が制度を利用しない	3 (0.6)	2 (1.1)	－ －	1 (1.6)	－ －	－ －	－ －
業務が忙しく取り組む余裕がない	62 (12.2)	27 (14.4)	24 (12.6)	7 (11.3)	4 (10.3)	－ －	－ －
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	3 (0.6)	3 (1.6)	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
コストの増加	58 (11.4)	21 (11.2)	18 (9.5)	8 (12.9)	7 (17.9)	－ －	4 (20.0)
業務効率の悪化	51 (10.0)	20 (10.6)	19 (10.0)	5 (8.1)	4 (10.3)	1 (9.1)	2 (10.0)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	21 (4.1)	13 (6.9)	5 (2.6)	1 (1.6)	2 (5.1)	－ －	－ －
院長等トップの理解がない	14 (2.7)	9 (4.8)	5 (2.6)	－ －	－ －	－ －	－ －
特に問題はない	7 (1.4)	1 (0.5)	3 (1.6)	1 (1.6)	1 (2.6)	1 (9.1)	－ －
その他	10 (2.0)	2 (1.1)	7 (3.7)	－ －	－ －	－ －	1 (5.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

１３　働きやすい職場づくりのために意見・要望を聞く取り組みについて

看護職員の意見・要望を聞く取組みをしているかについて「取組んでいる」は 128 病院(69.9%),「特に取組みはしていないが，随時聞いている」は 53 病院(29.0%)であった。

「取組んでいる」と回答した病院のうち，最も多く取組まれている制度は「上司との個別面接」で，頻度は「年 1 回以上」が最も多かった。(表 53)

表 53　　働きやすい職場づくりのための取り組み

（単位：病院（%））

区分	病院数	
計	183	(100.0)
※取り組んでいる	**128**	**(69.9)**
特に取組みはしてないが，随時聞いている	**53**	**(29.0)**
取組んでいない	2	(1.1)

※「取り組んでいる」の内容（複数回答）

（単位：病院）

区分	**年 1 回以上**	2～3 年に 1 回	※その他 (() 内は内容)
計	**157**	54	10
上司との個別面接	**91**	34	3
アンケート（満足度調査等）	66	20	7
意見箱の設置	72		
※その他（具体的内容を記入）	18		

「その他導入している制度の具体的内容」

- 年に一度は事務長との面談もあり意見を伝える場がある
- 人事考課フィードバック
- わくわくキャンペーンと題して、看護職員へ改善についてのアンケートを実施している
- 問題に対し各部署と各職員から意見を聞き取り。もしくは書類で回収
- スタッフの個別面接を年 2 回行っている
- 1 回/年、自己申告書提出
- 広島県版自己点検ツールチャレンジに参加した結果をもとに対策を立て取り組んでいる
- チューター制度。自部署以外の担当者が就職後 1 年間 2～3 ヶ月ごとの面接。
- ストレスチェック、労使懇談、社員意識調査
- アンケートをしようとしたが止められた。意見を聞きながら人事異動を実施
- 相談窓口の設置、職員対象のサロンの開催
- 法人部に弁護士による相談窓口(ＴＥＬかメール)が設置されている
- 職員満足度調査
- 組織全体に意見を聞き、看護部に関することの返答と改善を行っている
- アンケートを今年より開始した
- 各部署に個々で聞き取りした内容をもとにアンケートを実施、会議で相談し対応
- 意見箱を院内に 4 か所設置中
- 意向調査を看護部長が年 1 回実施
- 各病棟会で出た意見や日々の苦情等聞いて事務長と相談のうえ、管理者会議で検討している

Ⅲ　調査結果（看護補助者）

1　看護補助者の状況

2）　正規・正規以外別看護補助者数（実人員・換算数）

令和 7 年 4 月 1 日現在の看護補助者の状況は次のとおりであった。

正規・正規以外別看護補助者数の実人員は 4,518 人で,「正規」2,530 人（56.0%),「正規以外」1,988 人（44.0%）であった。（表 54-①）

換算数は 3,824.7 人で「正規」2,327.6 人（60.9%),「正規以外」1,497.1 人（39.1%）であった。（表 54-②）

表 54-①　　正規・正規以外別　看護補助者数（実人員）（令和 7 年 4 月 1 日現在）

（単位：人（%））

区分	計	
計	4,518	(100.0)
正規看護補助者	2,530	(56.0)
正規以外看護補助者	1,988	(44.0)

注 1　令和 7 年 4 月 1 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 54-②　　正規・正規以外別　看護補助者数（換算数）（令和 7 年 4 月 1 日現在）

（単位：人（%））

区分	計	
計	3,824.7	(100.0)
正規看護補助者	2,327.6	(60.9)
正規以外看護補助者	1,497.1	(39.1)

注 1　令和 7 年 4 月 1 日現在の実績

注 2　割合（%）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3） 保健医療圏域別看護補助者数（実人員・換算数）

令和 7 年 4 月 1 日現在の保健医療圏域別の実人員で最も多いのは「広島」1,885 人(41.7%)，次いで「福山・府中」753 人(16.7%)であった。(表 55-①)

換算数でみると，最も多いのは「広島」1,644.7 人(43.0%)，次いで「福山・府中」638.0 人(16.7%)であった。(表 55-②) また，看護補助者の正規の実人員・換算数でも同様の傾向であった。(表 55-③) (表 55-④)

表55-①　保健医療圏域別 看護補助者数（実人員）(令和7年4月1日現在)

(単位：人（%）)

区分	看護補助者（計）	
計	4,518	(100.0)
広島	**1,885**	**(41.7)**
広島西	317	(7.0)
呉	477	(10.6)
広島中央	416	(9.2)
尾三	428	(9.5)
福山・府中	**753**	**(16.7)**
備北	242	(5.4)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表55-②　保健医療圏域別 看護補助者数（換算数）(令和7年4月1日現在)

(単位：人（%）)

区分	看護補助者（計）	
計	3,824.7	(100.0)
広島	**1,644.7**	**(43.0)**
広島西	239.4	(6.3)
呉	367.9	(9.6)
広島中央	331.2	(8.7)
尾三	383.3	(10.0)
福山・府中	**638.0**	**(16.7)**
備北	220.1	(5.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表55-③　　保健医療圏域別 看護補助者数（正規の実人員）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	2,530	(100.0)
広島	**984**	**(38.9)**
広島西	202	(8.0)
呉	248	(9.8)
広島中央	257	(10.2)
尾三	211	(8.3)
福山・府中	**455**	**(18.0)**
備北	173	(6.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表55-④　　保健医療圏域別 看護補助者数（正規の換算数）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	2,327.6	(100.0)
広島	**972.5**	**(41.8)**
広島西	165.8	(7.1)
呉	198.7	(8.5)
広島中央	204.8	(8.8)
尾三	211.0	(9.1)
福山・府中	**416.6**	**(17.9)**
備北	158.2	(6.8)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

4） 病床規模別看護補助者数（実人員・換算数）

令和 7 年 4 月 1 日現在の病床規模別に看護補助者数の「実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」1,673 人(37.0%)，次いで「99 床以下」831 人(18.4%)であった。(表 56-①)

「換算数」でみると，最も多いのは「100～199 床」1,420.0 人(37.1%)，次いで「200～299 床」740.8 人(19.4%)であった。(表 56-②)

病床規模別に「正規の実人員」をみると，最も多いのは「100～199 床」1,176 人（46.5%），次いで「99 床以下」の 580 人（22.9%）であった。(表 56-③)

「正規の換算数」をみると，最も多いのは「100～199 床」1,062.1 人（45.6%），次いで「99 床以下」540.1 人（23.2%）であった。(表 56-④)

表56-①　病床規模別 看護補助者数（実人員）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	4,518	(100.0)
99床以下	**831**	**(18.4)**
100～199床	**1,673**	**(37.0)**
200～299床	800	(17.7)
300～399床	534	(11.8)
400～499床	221	(4.9)
500床以上	459	(10.2)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表56-②　病床規模別 看護補助者数（換算数）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	3,824.7	(100.0)
99床以下	703.4	(18.4)
100～199床	**1,420.0**	**(37.1)**
200～299床	**740.8**	**(19.4)**
300～399床	444.5	(11.6)
400～499床	150.7	(3.9)
500床以上	365.3	(9.6)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表56-③　　病床規模別 看護補助者数（正規の実人員）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	2,530	(100.0)
99床以下	**580**	**(22.9)**
100～199床	**1,176**	**(46.5)**
200～299床	448	(17.7)
300～399床	280	(11.1)
400～499床	19	(0.8)
500床以上	27	(1.1)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表56-④　　病床規模別 看護補助者数（正規の換算数）（令和7年4月1日現在）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	2,327.6	(100.0)
99床以下	**540.1**	**(23.2)**
100～199床	**1,062.1**	**(45.6)**
200～299床	441.8	(19.0)
300～399床	246.6	(10.6)
400～499床	10.0	(0.4)
500床以上	27.0	(1.2)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

５）　正規看護補助者数の推移（実人員・換算数）

正規看護補助者の推移をみると，令和 7 年度は令和 6 年度に比べ「実人員」は 50 人減少した。（表 57）

表57　　正規看護補助者数の推移

（単位：人）

年度	令和6年4月1日現在	令和7年4月1日現在
実人員	2,580	2,530
対前年度		**▲ 50**
換算数	2,532.3	2,327.6
対前年度		▲ 204.7

２　令和７年度採用状況

令和７年４月１日から４月 30 日までの正規看護補助者の採用状況は次のとおりである。

１）保健医療圏域別採用状況

採用者数は 83 人で、最も多かったのは「広島」50 人(60.2%)であった。(表 58)

表58　　保健医療圏域別・採用状況

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）
計	**83** (100.0)
広島	**50** **(60.2)**
広島西	3 (3.6)
呉	5 (6.0)
広島中央	7 (8.4)
尾三	6 (7.2)
福山・府中	7 (8.4)
備北	5 (6.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

３　夜勤専従者の有無

令和 6 年度に夜勤専従者がいる病院は 14 病院(7.6%),「正規看護補助者のみ」が 12 病院(6.5%),「正規以外看護補助者のみ」が 2 病院(1.1%)であった。(表 59-①)

夜勤専従者数は,「実人員」が 19 人,「延べ人員」が「3 交代(変則 3 交代含む)」は 205 人,「2 交代(変則 2 交代含む)」は 1,119 人であった。(表 59-②)

表59-①　夜勤専従者の有無(令和6年度)

(単位：病院（%）)

区分	計		夜勤専従者がいる		夜勤専従者がいない	
計	184	(100.0)	**14**	**(7.6)**	170	(92.4)
正規看護補助者			**12**	**(6.5)**		
正規以外看護補助者			**2**	**(1.1)**	170	(92.4)
正規・正規以外看護補助者			－	－		

注1　令和6年度の実績である

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表59-②　夜勤専従者の人数(令和6年度)

(単位：人)

区分		実人員	延べ人員	
			３交代 (変則３交代含む)	２交代 (変則２交代含む)
計		**19**	**205**	**1,119**
正規看護補助者のみ		16	205	943
正規以外看護補助者のみ		3	－	176
正規・正規以外看護補助者	正規 看護補助者	－	－	－
	正規以外 看護補助者	－	－	－

注　令和6年度の実績である

4　看護補助者の採用状況

令和 6 年度の正規看護補助者の採用状況は次のとおりである。

1）看護補助者採用者数

令和 6 年度の採用者数は 883 人で，内訳をみると「正規看護補助者」が 369 人(41.8%)，「正規以外看護補助者」は 514 人(58.2%)であった。(表 60)

表60　看護補助者 採用者数（令和6年度）

（単位：人（%））

区分	看護補助者（計）	
計	**883**	(100.0)
正規看護補助者	**369**	**(41.8)**
正規以外看護補助者	**514**	**(58.2)**

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2）正規看護補助者採用者数

（1） 保健医療圏域別採用者数

令和 6 年度の採用者数は 369 人，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で 168 人(45.5%)，次いで「福山・府中」57 人(15.4%)であった。(表 61)

表61　　保健医療圏域別・ 正規看護補助者採用状況（令和6年度）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）
計	**369**
	(100.0)
広島	**168**
	(45.5)
広島西	26
	(7.0)
呉	48
	(13.0)
広島中央	46
	(12.5)
尾三	23
	(6.2)
福山・府中	**57**
	(15.4)
備北	1
	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別採用者数

令和 6 年度の病床規模別に採用者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」で 201 人(54.5%)，次いで「99 床以下」で 66 人(17.9%)であった。(表 62)

表62　　病床規模別 正規看護補助者採用状況（令和6年度）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）
計	369
	(100.0)
99床以下	**66**
	(17.9)
100～199床	**201**
	(54.5)
200～299床	60
	(16.3)
300～399床	41
	(11.1)
400～499床	－
	－
500床以上	1
	(0.3)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

３） 正規以外看護補助者採用者数

（１）保健医療圏域別採用者数

令和 6 年度の採用者数は 514 人で，保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」で 288 人(56.0%)であった。(表 63)

表63　　保健医療圏域別　正規以外看護補助者採用状況（令和6年度）

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）
計	**514**
	(100.0)
広島	**288**
	(56.0)
広島西	15
	(2.9)
呉	26
	(5.1)
広島中央	36
	(7.0)
尾三	42
	(8.2)
福山・府中	89
	(17.3)
備北	18
	(3.5)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別採用者数

令和 6 年度の病床規模別に採用者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」で 154 人(30.0%)であった。(表 64)

表64　　病床規模別 正規以外看護補助者採用状況（令和6年度）

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）
計	514
	(100.0)
99床以下	53
	(10.3)
100～199床	**154**
	(30.0)
200～299床	102
	(19.8)
300～399床	64
	(12.5)
400～499床	36
	(7.0)
500床以上	105
	(20.4)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

５　看護補助者の離職状況

令和 6 年度の看護補助者の離職状況は次のとおりである。

１） 正規看護補助者離職者数

令和 6 年度の正規看護補助者の離職者数は 329 人であった。（表 65）

表65　　正規看護補助者離職者数(令和6年度)

（単位：人）

区分	看護補助者（計）
離職者数	**329**

（１）保健医療圏域別正規補助者　離職者数・離職率

令和 6 年度の正規看護補助者の離職者数は 329 人で，離職率は 13.6%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」144 人，離職率が最も高かったのは「広島中央」18.7%であった。（表 66）

表66　　保健医療圏域別 正規看護補助者　離職者数・離職率(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者計　（離職率）	
計	**329**	**(13.6)**
広島	**144**	(15.2)
広島西	20	(12.3)
呉	31	(12.7)
広島中央	49	**(18.7)**
尾三	24	(11.3)
福山・府中	49	(11.5)
備北	12	(7.7)

注　離職者数は定年退職者を含む

（２）病床規模別正規看護補助者　離職者数・離職率

令和 6 年度の病床規模別にみると，正規看護補助者の離職者数が最も多かったのは「100～199 床」182 人であった。離職率が最も高かったのも「100～199 床」で 16.9%であった。（表 67）

表67　　病床規模別 正規看護補助者　離職者数・離職率(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者計（離職率）	
計	329	(13.6)
99床以下	72	(12.7)
100～199床	**182**	**(16.9)**
200～299床	52	(11.6)
300～399床	22	(8.2)
400～499床	－	－
500床以上	1	(3.6)

注　離職者数は定年退職者を含む

２）正規以外看護補助者離職者数

（１）保健医療圏域別正規以外看護補助者　離職者数・離職率

令和 6 年度の正規以外看護補助者の離職者数は 452 人で，離職率は 24.2%であった。保健医療圏域別にみると，離職者数が最も多かったのは「広島」で 260 人，離職率が最も高かったのも「広島」で 30.2%であった。（表 68）

表68　　保健医療圏域別 正規以外看護補助者　職者数・離職率(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者計（離職率）	
計	**452**	**(24.2)**
広島	**260**	**(30.2)**
広島西	17	(16.4)
呉	37	(17.4)
広島中央	20	(14.1)
尾三	29	(13.8)
福山・府中	76	(28.1)
備北	13	(18.6)

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

（２）病床規模別正規以外看護補助者　離職者数・離職率

令和 6 年度の病床規模別にみると，正規以外看護補助者の離職者数が最も多かったのは「100～199 床」で 150 人であった。離職率が最も高かったのも「100～199 床」で 33.2%であった。（表 69）

表69　　病床規模別 正規以外看護補助者　離職者数・離職率(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者計（離職率）	
計	452	(24.2)
99床以下	59	(24.9)
100～199床	**150**	**(33.2)**
200～299床	74	(21.2)
300～399床	47	(21.2)
400～499床	26	(13.2)
500床以上	96	(23.4)

注　離職者数は契約期間満了退職者を含む

６　正規看護補助者の特別休暇等の取得状況

令和６年度の正規看護補助者の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

１）育児休業取得正規看護補助者数

（１）保健医療圏域別育児休業取得正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば育児休業取得正規看護補助者数は 55 人(2.3%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」37 人(1.5%)であった。次いで「福山・府中」７人(0.3%)であった。(表 70)

表70　保健医療圏域別 育児休業取得正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者計（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	**55**	**(2.3)**
広島	**37**	**(1.5)**
広島西	2	(0.1)
呉	1	(0.0)
広島中央	4	(0.2)
尾三	3	(0.1)
福山・府中	**7**	**(0.3)**
備北	1	(0.0)

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別育児休業取得正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば病床規模別の育児休業取得正規看護補助者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」38 人(1.6%)，次いで「99 床以下」「200～299 床」７人(0.3%)であった。(表 71)

表71　病床規模別 育児休業取得正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	55	(2.3)
99床以下	**7**	**(0.3)**
100～199床	**38**	**(1.6)**
200～299床	**7**	**(0.3)**
300～399床	3	(0.1)
400～499床	－	－
500床以上	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

２）介護休業取得正規看護補助者数

（１）保健医療圏域別介護休業取得正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば介護休業取得正規看護補助者数は１人であった。保健医療圏域別にみると，「広島」の１人であった。（表 72）

表72　保健医療圏域別 介護休業取得正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	**1**	**(0.0)**
広島	1	(0.0)
広島西	－	－
呉	－	－
広島中央	－	－
尾三	－	－
福山・府中	－	－
備北	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別介護休業取得正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば病床規模別の介護休業取得正規看護補助者数をみると，「99 床以下」の１人であった。（表 73）

表73　病床規模別 介護休業取得正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	1	(0.0)
99床以下	**1**	(0.0)
100～199床	－	－
200～299床	－	－
300～399床	－	－
400～499床	－	－
500床以上	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

３）時間短縮勤務正規看護補助者数

（１）保健医療圏域別時間短縮勤務正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば時間短縮勤務正規看護補助者数は 33 人(1.4%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」13 人(0.5%)であった。次いで「福山・府中」10 人(0.4%)であった。(表 74)

表74　保健医療圏域別 時間短縮勤務中の正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	**33**	**(1.4)**
広島	**13**	**(0.5)**
広島西	2	(0.1)
呉	1	(0.0)
広島中央	－	－
尾三	1	(0.0)
福山・府中	**10**	**(0.4)**
備北	6	(0.2)

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別時間短縮勤務正規看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば病床規模別に時間短縮勤務正規看護補助者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」21 人(0.9%)であった。次いで「99 床以下」７人(0.3%)であった。(表 75)

表75　　病床規模別 時間短縮勤務中の正規看護補助者数（実人員）（令和7年3月31日現在の実績）

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	33	(1.4)
99床以下	**7**	**(0.3)**
100～199床	**21**	**(0.9)**
200～299床	2	(0.1)
300～399床	3	(0.1)
400～499床	－	－
500床以上	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

４）病休・休職等正規看護補助者数

（１）保健医療圏域別病休・休職等正規看護補助者数

令和 6 年度の病休・休職等正規看護補助者数は 59 人(2.4%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」25 人(1.0%)であった。次いで「福山・府中」12 人(0.5%)であった。(表 76)

表76　　保健医療圏域別 病休・休職等正規看護補助者数（実人員）(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	**59**	**(2.4)**
広島	**25**	**(1.0)**
広島西	4	(0.2)
呉	6	(0.2)
広島中央	6	(0.2)
尾三	6	(0.2)
福山・府中	**12**	**(0.5)**
備北	－	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別病休・休職等正規看護補助者数

令和 6 年度の病床規模別の病休・休職等正規看護補助者数をみると，最も多かったのは「100～199 床」36 人(1.5%)であった。次いで「99 床以下」12 人(0.5%)であった。(表 77)

表77　　病床規模別 病休・休職等正規看護補助者数（実人員）(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規看護補助者（計）	
平均正規看護補助者数	2,412.5	
計	59	(2.4)
99床以下	**12**	**(0.5)**
100～199床	**36**	**(1.5)**
200～299床	6	(0.2)
300～399床	5	(0.2)
400～499床	－	－
500床以上	－	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

7　正規以外看護補助者の特別休暇等の取得状況

令和 6 年度の正規以外看護補助者の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1）育児休業取得正規以外看護補助者数

（1）保健医療圏域別育児休業取得正規以外看護補助者数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば育児休業取得正規以外看護補助者数は 12 人(0.5%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」5 人(0.2%)であった。次いで「呉」3 人(0.1%)であった。(表 78)

表78　保健医療圏域別 育児休業取得正規以外看護補助者数(実人員)(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者計（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	**12**	**(0.5)**
広島	**5**	**(0.2)**
広島西	－	－
呉	**3**	**(0.1)**
広島中央	2	(0.1)
尾三	－	－
福山・府中	2	(0.1)
備北	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（2）病床規模別育児休業取得正規以外看護補助者数

令和 7 年 3 月 31 日現在の実績によれば病床規模別の育児休業取得正規以外看護補助者数をみると，最も多かったのは「99 床以下」「100～199 床」4 人(0.2%)，次いで「500 床以上」2 人(0.1%)であった。(表 79)

表79　病床規模別 育児休業取得正規以外看護補助者数(実人員)(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	12	(0.5)
99床以下	**4**	**(0.2)**
100～199床	**4**	**(0.2)**
200～299床	－	－
300～399床	1	(0.0)
400～499床	1	(0.0)
500床以上	**2**	**(0.1)**

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

２）介護休業取得正規以外看護補助者数

（１）保健医療圏域別介護休業取得正規以外看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば介護休業取得正規以外看護補助者数は１人であった。保健医療圏域別にみると，「尾三」の１人であった。（表 80）

表80　保健医療圏域別 介護休業取得正規以外看護補助者数(実人員)(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	1	(0.0)
広島	－	－
広島西	－	－
呉	－	－
広島中央	－	－
尾三	1	(0.0)
福山・府中	－	－
備北	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別・職種別介護休業取得正規以外看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば病床規模別の介護休業取得正規以外看護補助者数をみると，「300～399 床」の１人であった。（表 81）

表81　病床規模別 介護休業取得正規以外看護補助者数（実人員）(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	1	(0.0)
99床以下	－	－
100～199床	－	－
200～299床	－	－
300～399床	1	(0.0)
400～499床	－	－
500床以上	－	－

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

３）時間短縮勤務正規以外看護補助者数

（１）保健医療圏域別時間短縮勤務正規以外看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば時間短縮勤務正規以外看護補助者数は 22 人(0.9%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島中央」12 人(0.5%)であった。次いで「広島」4 人(0.2%)であった。(表 82)

表82　保健医療圏域別 時間短縮勤務中の正規以外看護補助者数(実人員)(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	**22**	**(0.9)**
広島	**4**	**(0.2)**
広島西	2	(0.1)
呉	－	－
広島中央	**12**	**(0.5)**
尾三	－	－
福山・府中	2	(0.1)
備北	2	(0.1)

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別時間短縮勤務正規以外看護補助者数

令和７年３月 31 日現在の実績によれば病床規模別に時間短縮勤務正規以外看護補助者数をみると，最も多かったのは「99 床以下」15 人(0.6%)であった。次いで「100～199 床」「200～299 床」「500 床以上」2 人(0.1%)であった。(表 83)

表83　　病床規模別 時間短縮勤務中の正規以外看護補助者数(実人員)(令和7年3月31日現在の実績)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	22	(0.9)
99床以下	**15**	**(0.6)**
100～199床	**2**	**(0.1)**
200～299床	**2**	**(0.1)**
300～399床	1	(0.0)
400～499床	－	－
500床以上	**2**	**(0.1)**

注1　令和7年3月31日現在の実績

注2　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

４）病休・休職等正規以外看護補助者数

（１）保健医療圏域別病休・休職等正規以外看護補助者数

令和 6 年度の病休・休職等正規以外看護補助者数は 53 人(2.2%)であった。保健医療圏域別にみると，最も多かったのは「広島」31 人(1.3%)であった。次いで「福山・府中」8 人(0.3%)であった。(表 84)

表84　　保健医療圏域別 病休・休職等正規以外看護補助者数（実人員）(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	**53**	**(2.2)**
広島	**31**	**(1.3)**
広島西	4	(0.2)
呉	3	(0.1)
広島中央	4	(0.2)
尾三	2	(0.1)
福山・府中	**8**	**(0.3)**
備北	1	(0.0)

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

（２）病床規模別病休・休職等正規以外看護補助者数

令和 6 年度の病床規模別の病休・休職等正規以外看護補助者数をみると，最も多かったのは「500 床以上」17 人(0.7%)であった。次いで「100～199 床」16 人(0.7%)であった。(表 85)

表85　　病床規模別 病休・休職等正規以外看護補助者数（実人員）(令和6年度)

（単位：人（%））

区分	正規以外看護補助者（計）	
平均正規以外看護補助者数	1,868.0	
計	53	(2.2)
99床以下	6	(0.2)
100～199床	**16**	**(0.7)**
200～299床	7	(0.3)
300～399床	－	－
400～499床	7	(0.3)
500床以上	**17**	**(0.7)**

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

8　教育研修体制

1） 令和 7 年度の看護補助者の教育研修体制(再掲)

令和 7 年度の「新規採用者の教育研修計画」が「あり」は 143 病院(78.1%)であった。病床規模別にみるとすべての病院が「あり」であった。(表 86)

表86　　病床規模別の教育研修計画(令和7年度)

（単位：病院（%））

区分	計		新規採用者の教育研修計画		研修プログラム	
			あり	なし	あり	なし
計	183	(100.0)	**143** **(78.1)**	40 (21.9)	142 (77.6)	37 (20.2)
99床以下	43	(23.5)	43	22	39	23
100～199床	60	(32.8)	60	10	59	10
200～299床	20	(10.9)	20	3	21	2
300～399床	9	(4.9)	9	5	12	2
400～499床	4	(2.2)	4	－	4	－
500床以上	7	(3.8)	7	－	7	－

注　割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

Ⅳ参考資料

（資料 1）　令和 7 年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

令和7年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

保健師、助産師、看護師及び准看護師（以下「看護職員」という。）並びに看護補助者の確保定着のための職場環境づくりの取り組みについてお尋ねします。

＜記入上の注意＞
- ●該当項目の枠内に〇印又は数字を記入し、（　　）には必要事項をご記入ください。
- ●小数点第1位まで記入が必要な項目については、小数点第2位を四捨五入して回答してください。
- ●0人の場合は「0」をご記入ください。数字をとっていない場合は「－」をご記入ください。
- ●「注」の表示がある項目については、別紙「注意事項」を参照してください。

（ふりがな）
【記入者】職　位　　氏　名

問1　病院の概要についてお答えください。【令和7年4月1日現在】　No.

①施設名　②所在地　③電話番号　④病院設置主体　をご記入ください。
訂正箇所があれば、右側に赤字で訂正をお願いします。

①
②
③
④

⑤ 稼働病床数をご記入ください。　＿＿＿＿床

問2　令和7年度看護職員数を従事している職種別にお答えください。　注1

	区分		看護職員				
			保健師	助産師	看護師	准看護師	計
注2 正規	①職員数（実人員）【令和7年4月1日現在】（ ）内は男性の人数を再掲		（　）		（　）	（　）	（　）
	換算数（小数点第1位まで）						
	②採用者数【令和7年4月1日～4月30日】	新卒者数 注3					
		既卒者数 注3					
注2 以外正規	職員数（実人員）【令和7年4月1日現在】						
	換算数（小数点第1位まで）						

※「換算数」＝勤務時間／日÷常勤職員の勤務時間／日
常勤職員1人あたりの勤務時間数が8時間の場合、4時間勤務職員の「換算数」は0.5となる。

問3　常勤看護職員の時間外勤務についてお答えください。【令和7年10月実績】

常勤看護職員 注4	一人当たり　平均（　　時間）／月　最長（　　時間）／月

問4　夜勤回数に該当する常勤看護職員数（新卒を含む）についてお答えください。（夜勤専従者を除く）【令和7年10月実績】

勤務形態	3交代（変則3交代含む）						2交代（変則2交代含む）				
夜勤回数	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
看護職員数（実人員）	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

※1カ月のうちに3交代と2交代を両方行った人は、2交代を3交代に換算する。（2交代1回を3交代2回として計算）

問5 正規看護職員の平均年齢、有給休暇、年間休日等についてお答えください。

①平均年齢【令和6年4月1日現在】	（　　歳）	※小数点第1位まで記入
②年次有給休暇の取得状況【令和6年度実績】	（一人あたり　　日）／年	※小数点第1位まで記入
③年次有給休暇の時間単位での取得【令和6年度実績】	1．できる（※半日取得可能な場合も含む）　2．できない	
④所定年間休日総数【令和6年度実績】	（　　日）	

1

問6　令和6年度の看護職員の状況についてお答えください。
看護職員数を従事している職種別にご記入ください。
（ただし①と⑪については昨年度のご回答をもとに当方で記入済みです。）

区分				看護職員				
				保健師	助産師	看護師	准看護師	計
正規	①職員数（実人員）【令和6年4月1日現在】							
	換算数（小数点第1位まで）							
	②職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】							
	令和6年度	③採用者数 注5	新卒者数					
			既卒者数					
		④離職者数 注5	（1）定年退職者数					
			（2）新卒離職者数					
			（1）（2）以外の離職者数					
			計					
	⑤育児休業中の職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】							
	⑥介護休業中の職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】							
	⑦時間短縮勤務職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】							
	令和6年度	⑧病休・休職等職員数（実人員） 注6						
		⑨夜勤専従職員数 注7	実人員					
			延べ回数 3交代（変則3交代含む）					
			延べ回数 2交代（変則2交代含む）					
正規以外	⑩職員数（実人員）【令和6年4月1日現在】							
	⑪職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】							
	令和6年度	⑫採用者数						
		⑬離職者数　※契約期間満了退職者含む						
		⑭夜勤専従職員数 注7	実人員					
			延べ回数 3交代（変則3交代含む）					
			延べ回数 2交代（変則2交代含む）					

問7　看護補助者の状況についてお答えください（ただし①については昨年度のご回答をもとに当方で記入済みです。）

区分			正規 注2	正規以外 注2
①職員数（実人員）【令和6年4月1日現在】				
換算数（小数点第1位まで）				
②職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】				
換算数（小数点第1位まで）				
③採用者数【令和7年4月1日～4月30日】				
令和6年度	④採用者数 注8			
	⑤離職者数 注8			
⑥育児休業中の職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】				
⑦介護休業中の職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】				
⑧時間短縮勤務職員数（実人員）【令和7年3月31日現在】				
令和6年度	⑨病休・休職等職員数（実人員） 注6			
	⑩夜勤専従職員数 注7	実人員		
		延べ回数 3交代（変則3交代含む）		
		延べ回数 2交代（変則2交代含む）		

問8　令和6年度の母性保護、育児、介護休業に関する制度についてお答えください。

1）　母性保護制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください → 利用について	
① 夜勤・当直免除	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 夜勤・当直日数減	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 超過勤務免除	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 変形労働時間の適用除外	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 時差通勤	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ つわり休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ 通院休暇（保健指導・検診受診時間の確保等）	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ 配置転換	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。				

※変形労働時間制：1週間の労働時間が40時間を超えなければ、特定の日などに法定労働時間を超えて労働させることができる。

2）　育児休業制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください → 利用について	
① 育児休業	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 子の看護等休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 所定外労働の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 時間外労働制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 深夜業の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ 短時間勤務	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ フレックスタイム制	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ テレワーク	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑩ 託児施設の設置運営	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑪ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。				

3） 介護休業制度を導入していますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）
各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1．あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		「1．あり」と答えた方は「利用について」へお進みください → 利用について	
① 介護休業	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
② 介護休暇	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
③ 時間外労働の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
④ 深夜業の制限	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑤ 短時間勤務	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑥ フレックスタイム制	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑦ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑧ テレワーク	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑨ 介護サービス費用の助成	1．あり	2．なし	1．あり	2．なし
⑩ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は内容をご記入ください。	（　　）			

問9 令和7年度の研修体制やキャリアアップについてお答えください。

1）教育研修体制

① 継続教育研修プログラム		1．あり	2．なし
② 看護部門における教育研修責任者の配置		1．あり（1．専従　2．兼任）	2．なし
③ 病棟・外来などでの教育担当者の配置		1．あり（1．専従　2．兼任）	2．なし
④ 新規採用者の教育研修計画	新卒採用者	1．あり ➡ 厚労省のガイドラインに沿った研修体制（1．あり　2．なし）	2．なし
	既卒採用者	1．あり	2．なし
	看護補助者	1．あり	2．なし
⑤ 看護補助者の研修プログラム		1．あり	2．なし

2）キャリアアップのための支援について

進学や資格取得のための支援制度の導入を行っていますか。	1．はい	2．いいえ

以下、「1．はい」と回答された方のみお答えください。（複数回答可）
各制度の導入について、導入しているものに○印をしてください。

		奨学金制度	休職制度	勤務調整	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
進学	大学・大学院等						
	看護師養成所（通信制含む）						
資格取得	看護管理者						
	専門看護師						
	認定看護師						
	特定行為研修						
	国内外留学						

問10　働きやすい職場づくりのために取り組んでいる事をお答えください。

①ワークライフバランス支援への取り組みが、経営理念や人事の方針として明文化されている	1. はい　2. いいえ
②ワークライフバランスの促進のために、施設内で推進体制をつくっている	1. はい　2. いいえ
③ワークライフバランスの推進をモニタリングしている	1. はい　2. いいえ
④ワークライフバランスに配慮する必要性について、管理職に徹底を図っている	1. はい　2. いいえ
⑤ワークライフバランス支援制度に関する情報提供を行っている	1. はい　2. いいえ
⑥全職員に対してワークライフバランスの理解を深める働きかけを行っている	1. はい　2. いいえ
⑦その他 （独自の取り組み等）	

問11　働きやすい職場づくりを進めていく上で問題となっている、又は問題となると思われる項目を3つ選び、番号をご記入ください。

（　　）（　　）（　　）

1. 進め方がわからない	2. 相談先がわからない	3. 効果が不透明
4. 代替職員の確保	5. 制度を利用していない職員との不公平感	6. 保育サービスの不足
7. 職員が制度を利用しない	8. 業務が忙しく取り組む余裕がない	9. 院内で制度を利用しにくい雰囲気がある
10. コストの増加	11. 業務効率の悪化	12. 院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない
13. 院長等トップの理解がない	14. 特に問題はない	15. その他（　　）

問12　働きやすい職場づくりのために看護職員の意見・要望を聞く取り組みをしていますか。

1. 取組んでいる	2. 特に取組みはしていないが、随時聞いている	3. 取組んでいない

以下、「1. 取組んでいる」と回答された方のみ、その方法・頻度等についてお答えください。（複数回答可）

1. 上司との個別面接	頻度	a. 年　1回以上　b. 2～3年に1回　c. その他（　　）
2. アンケート（満足度調査等）	頻度	a. 年　1回以上　b. 2～3年に1回　c. その他（　　）
3. 意見箱の設置		
4. その他		

問13　看護職員の確保・定着の対策等について意見・要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

（資料 2）　令和 7 年度　広島県看護職員の職場環境づくり実態調査　注意事項

別紙

令和 7 年度 広島県看護職員の職場環境づくり実態調査
注　意　事　項

【1 ページ　問２】

注 1　看護職員数（令和 7 年 4 月 1 日現在）

・看護職員数（実人員）とは、正規職員で在籍している全職員数を従事している職種別に記入してください。（育児休業、介護休業、長期病気休業等の職員も含む）

・4 月 1 日採用の新卒看護職員は、免許申請していれば看護職員数に入れてください。

・換算数とは、常勤勤務時間を 1 日 8 時間/週 40 時間とした場合、その常勤勤務時間を基に計算した人数です。（常勤職員 1 人＝換算数 1 人）

・換算数の計算は、短時間勤務する正規職員がいる場合（育児短時間勤務など）、下記の計算で換算数を出してください。（育児休業、介護休業、長期病気休業の人は、勤務時間が無いので換算人数に入れない）

（計算式）　週の勤務時間÷40 時間＝換算数
（例）：1 日 4 時間で週 5 日勤務＝週 20 時間勤務の人
20 時間÷40 時間＝0.5 人（換算数）
1 日 6 時間で週 3 日勤務＝週 18 時間勤務の人
18 時間÷40 時間＝0.45 人（換算数）
1 日 8 時間で週 4 日勤務＝週 32 時間勤務の人
32 時間÷40 時間＝0.8 人（換算数）
上記の 3 人の短時間勤務者の換算数は、**0.5＋0.45＋0.8＝1.75 人**となる。
よって、3 人の換算数（**小数点第 1 位まで**）は、**1.8 人**である。
常勤勤務者が 10 人と上記の 3 人の短時間勤務者がいる場合、
職員数の合計は 13 人、換算数は 11.8 人である。

注 2　正規、正規以外

・正規職員とは、原則としてフルタイム勤務であり、雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいいます。（正規職員の育児短時間制度利用者、短時間勤務者も含む）

・正規以外とは、定年後再雇用者、派遣労働者、契約社員、臨時・パートタイム労働者等の有期雇用者です。

注 3　新卒者、既卒者

新卒者とは、看護師等免許を取得して 1 年未満の者をいい、既卒者とは看護師等免許を取得して 1 年以上の者をいいます。

【1 ページ　問３】

注 4　常勤看護職員

・常勤とは、施設が定めている所定労働時間を勤務する職員です。（フルタイム勤務者）

・常勤と非常勤は勤務時間により区分する職員です。

・常勤と正規職員を混同しないでください。（常勤≠正規職員）

・定年後再雇用者、派遣労働者、契約社員、臨時がフルタイムで働いている場合は常勤です。

（裏へ）

【2 ページ　問６・問７】

注 5　採用者数、離職者数

・令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日の期間）1 年間の採用と離職の人数です。

・再雇用や任用替え、准看護師から看護師に雇用し直す場合の記入方法は次の通りです。

1) 正規職員が誕生日月で定年退職し、年度内に再雇用した場合、正規職員の定年退職者数欄に計上するとともに該当する採用者数欄へ計上。
2) 正規職員が 3 月 31 日で定年退職し、翌年度（4 月 1 日以降）に再雇用した場合、正規職員の定年退職者数欄に計上。採用者数欄へ計上は翌年度の調査時に採用欄に計上。
3) 正規以外から正規職員への任用替えの場合、正規以外の退職者数欄に計上するとともに正規職員の採用者数欄へ計上。
4) 准看護師として雇用していた職員を看護師として雇用する場合、准看護師の退職者数欄に計上するとともに看護師の採用者数欄（既卒者の欄）へ計上。
5) 同一法人内の他施設への異動は、退職者数欄と採用者数欄に計上。
6) 助産師業務から看護師業務への院内異動は記入不要。

注 6　病休･休職者

1 か月以上の長期病休・休職者の実人員数です。
（1 年間の内に、一人の職員が、復職や休職を繰り返しても 1 人と計算）

注 7　夜勤専従職員数

・実人員数とは、令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日の期間）1 年間で夜勤専従を行った人の人数です。

（例）12 か月夜勤専従をした人が 1 人、
6 か月夜勤専従した人が 1 人、
2 か月夜勤専従した人が 3 人
上記の夜勤専従の実人員は、5 人となる。

・延べ回数とは、令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日の期間）1 年間、全ての夜勤専従者が行った夜勤の回数です。

（例）12 か月夜勤専従をした人は 1 人で、月に 3 交代夜勤を 16 回行った＝192 回（3 交代）
6 か月夜勤専従をした人は 1 人で、月に 3 交代夜勤を 16 回行った＝96 回（3 交代）
2 か月夜勤専従をした人は 3 人で、1 人につき月に 2 交代夜勤を 8 回行った＝48 回（2 交代）
上記の夜勤専従者の夜勤延べ回数は 3 交代が 288 回、2 交代が 48 回となる。

注 8　採用者数、離職者数

・令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日の期間）1 年間の看護補助者の採用と離職の人数です。